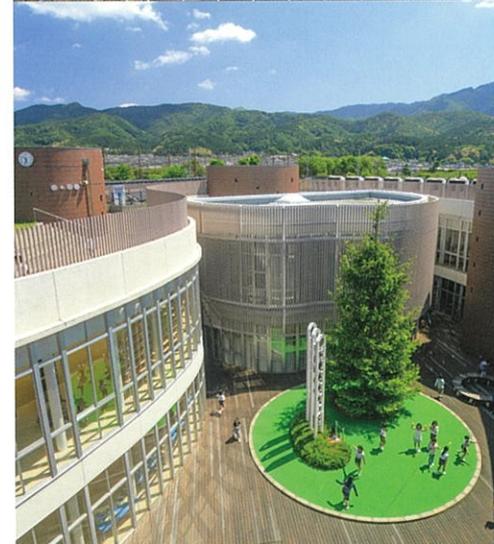
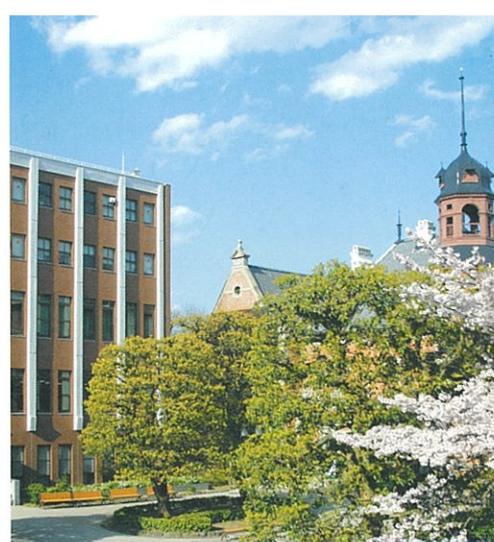


# 学校法人 同志社 事業報告書2017

The Doshisha Social Responsibility Report 2017

One purpose, Doshisha, thy name  
Doth signify; one lofty aim;  
To train thy sons in heart and hand  
To live for God and Native Land.  
Dear Alma Mater, sons of thine  
Shall be as branches to the vine;  
Tho' through the world we wander far and wide,  
Still in our hearts thy precepts shall abide!

## 同志社の新たな躍動



学校法人 同志社 事業報告書2017  
発行にあたって

官許同志社英学校として1875年に始まった同志社は、2015年11月に創立140周年を迎えました。創立以来、多くの困難を乗り越えて教育・研究活動を続け、2018年5月現在では約4万3100名の学生・生徒・児童・園児が学ぶ「一大総合学園」に成長し、進化を続けています。これもひとえに、保護者や卒業生をはじめ、地域や行政機関、企業、一般市民の方々からの温かいご支援・ご指導があったからこそと、感謝しております。

2017年は、あらゆる分野において「フロントラインで躍進する同志社」を目指し、理念とする良心教育を始め、新たな一貫教育の展開や教育環境の基盤整備など、価値のある取り組みを行いました。「オール同志社」の強みを生かすことで、ブランド力を高め、次の創立150年に向けてさらなる歩みを進めていきます。

学校法人同志社は、今後も教育・研究に関する改革を推し進め、健全な学校法人運営を維持するため、すべてのステークホルダー（利害関係者）の皆様に対して、情報公開を徹底してまいります。

本報告書によって、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが、より一層促進されることを心より願っております。

2018年5月26日  
学校法人 同志社

本報告書の対象範囲

同志社法人部、ならびに大学から幼稚園までの各校。数値・金額にはそれぞれ対象範囲を付記しています。

本報告書の対象期間

2017年4月1日～ 2018年3月31日  
(一部、上記期間以前または以後の状況についても記載しています)

学校法人 同志社  
事業報告書2017

2018年5月26日発行

発行:学校法人 同志社  
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入  
URL <http://www.doshisha.ed.jp/>

無断転載を禁止します。

All Rights Reserved.

Printed in Japan ©The Doshisha

The Doshisha Social Responsibility Report 2017

お問い合わせは

学校法人同志社 法人部法人事務部法人事務室  
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入  
TEL 075-251-3006  
FAX 075-251-4980  
E-MAIL [ji-hojin@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-hojin@mail.doshisha.ac.jp)

Contents

目次

教育理念	3
法人内各学校	3
八田 英二 総長・理事長からのメッセージ 創立150年に向かって 同志社の新たな躍動	4
松岡 敬 同志社大学長メッセージ ALL DOSHISHAで 躍動する同志社を創造	6
加賀 裕郎 同志社女子大学長メッセージ 建学の精神を礎に 揺るぎない女子教育を推進	7
<b>事業の概要</b>	
同志社大学	8
同志社女子大学	10
同志社中学校・高等学校	12
同志社香里中学校・高等学校	13
同志社女子中学校・高等学校	14
同志社国際中学校・高等学校	15
同志社小学校	16
同志社国際学院	17
同志社幼稚園	18
<b>ハイライト</b>	
同志社大学2017年ハイライト	19
同志社女子大学2017年ハイライト	22
各学校2017年ハイライト	23
<b>法人の取り組み</b>	25
<b>【特集1】コンプライアンス機能の強化と ガバナンス改革に向けた取り組み</b>	27
<b>【特集2】グラフで見る同志社</b>	28
<b>財務の概要</b>	
概況	30
資金収支計算書	30
事業活動収支計算書	32
貸借対照表	34
財務比率	36
学校別の状況	37
2018年度の事業計画	38
<b>法人の概要</b>	39
理事、監事、評議員、沿革	

## 教育理念

同志社は、1875(明治8)年、新島襄によって創立された、わが国有数のキリスト教主義の学園です。創立当時の生徒はわずか8名でしたが、2018年5月現在では、同志社大学、同志社女子大学のほか、4つの高等学校、4つの中学校、小学校、国際学院と幼稚園を含む総合学園となり、学生・生徒・児童・園児は約4万3100名、教職員は約1800名となっています。また30万名を超える卒業生は、経済・政治・宗教・教育・社会事業など多方面で社会のために活躍しています。

新島は同志社の教育目的を1888(明治21)年、全国に発表した「同志社大学設立の旨意」の中で、次のように述べています。

「(同志社設立の)目的とする所は、独り普通の英学を教授するのみならず(中略)、其精神を正大ならしめんことを勉め、独り枝芸才能ある人物を教育するに止まらず、所謂の良心を手腕に運用するの人物を出さん事を勉めたりき」(\*)

新島は、知育、体育だけでなく徳育を含めた「知・徳・体」の調和ある教育の実践を理想としていました。教育を通して生徒・学生が、型にはまらず独立心と才能あふれる<sup>てきとうふき</sup>個儼不羈なる人物として、「自治自立の人民」「一国の良心」となることを究極の目的としました。

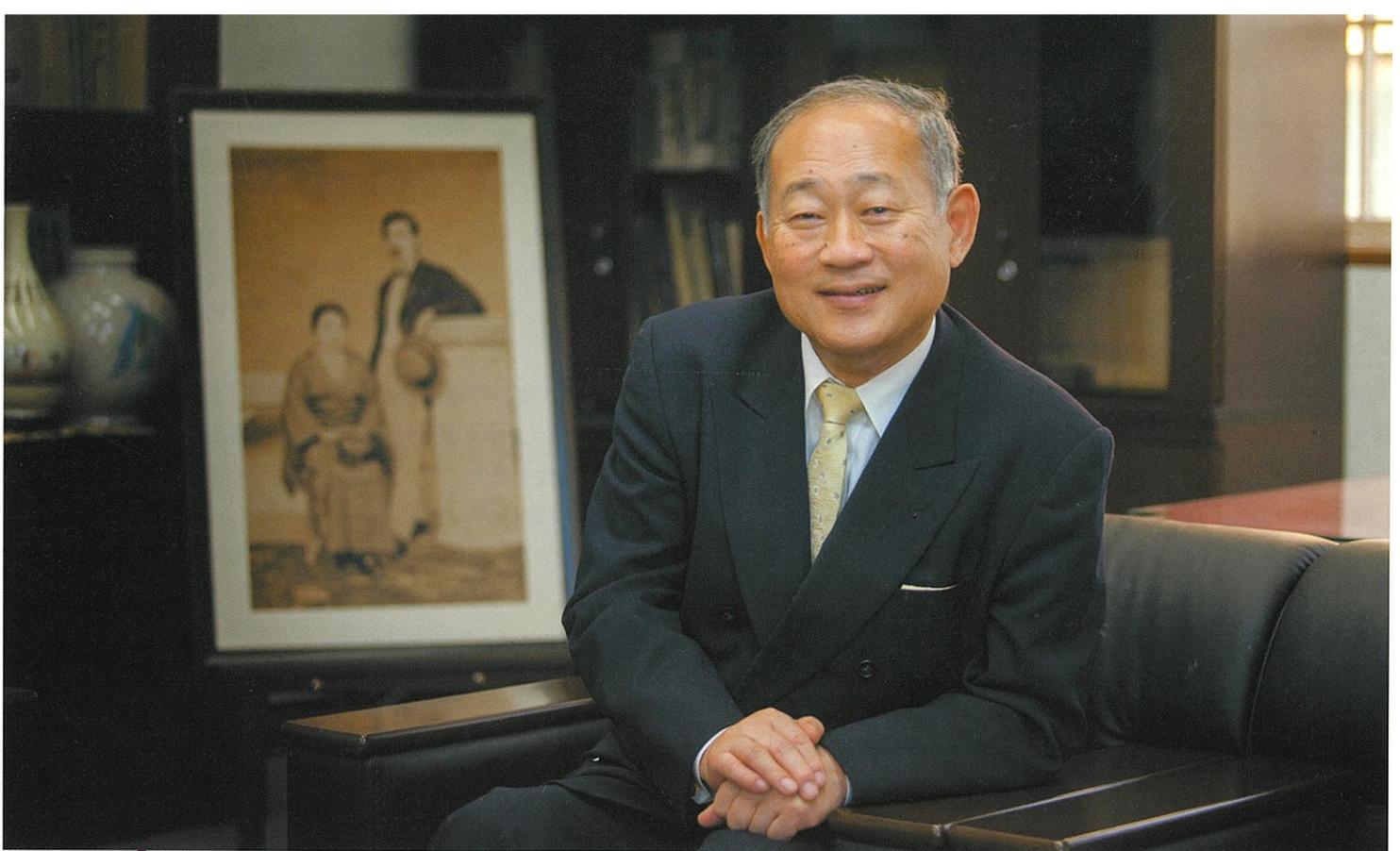
同志社では新島の建学の精神を受け継ぎ、キリスト教主義、自由主義、国際主義を教育の重要な柱としています。また、生徒・学生の個性や自発性を尊重し、全人教育を通して広い視野から現状分析と将来展望を持って行動することのできる人間、自らの良心に従って生きる人間、新島の言う「自治自立の人民」の育成を目指します。グローバル化が進む21世紀では、ますます新島の建学の精神が、そして同志社教育が重要性を増すことでしょう。

(\*)「同志社大学設立の旨意」『新島襄全集』より

## 法人内各学校

法人部  監事  理事会  評議員会		<b>同志社大学</b> Doshisha University 学 部 …………… 神学部／文学部／社会学部／法学部／経済学部／商学部／政策学部／文化情報学部／理工学部／生命医科学部／スポーツ健康科学部／心理学部／グローバル・コミュニケーション学部／グローバル地域文化学部 大学院 …………… 神学研究科／文学研究科／社会学研究科／法学研究科／経済学研究科／商学研究科／総合政策科学研究科／文化情報学研究科／理工学研究科／生命医科学研究科／スポーツ健康科学研究科／心理学研究科／グローバル・スタディーズ研究科／脳科学研究科／ビジネス研究科(修士課程) 専門職大学院 … 司法研究科(ロースクール)／ビジネス研究科(ビジネススクール 専門職学位課程)
		<b>同志社女子大学</b> Doshisha Women's College of Liberal Arts 学 部 …………… 学芸学部／現代社会学部／薬学部／看護学部／表象文化学部／生活科学部 専攻科 …………… 音楽専攻科 大学院 …………… 文学研究科／国際社会システム研究科／薬学研究科／看護学研究科／生活科学研究科
		<b>同志社中学校・高等学校</b> Doshisha Junior and Senior High School
		<b>同志社香里中学校・高等学校</b> Doshisha Kori Junior and Senior High School
		<b>同志社女子中学校・高等学校</b> Doshisha Girls' Junior and Senior High School
		<b>同志社国際中学校・高等学校</b> Doshisha International Junior and Senior High School
		<b>同志社小学校</b> Doshisha Elementary School
		<b>同志社国際学院初等部・国際部</b> Doshisha International Academy Elementary School and International School
		<b>同志社幼稚園</b> Doshisha Kindergarten

(2018年4月現在)



はった えいじ  
総長・理事長 八田 英二

総長・理事長からのメッセージ  
Message from Chancellor & Chairperson

## 創立150年に向かって 同志社の新たな躍動

学校法人同志社の総長・理事長に就任し、1年が過ぎようとしています。この間、私はいくつかの直面する課題を明らかにし、「自らが動き」そして「じかに話し、じかに聞く」ことで現場の思いを踏まえ、理想を語ることに終わらず、具体的な解決や道筋を示すことが大切だと考え、そのように実践してきました。

### 良心教育の推進

重要職務の一つは、創立者の宿志に根差した教育事業のさらなる遂行です。良心教育を標榜する同志社が基盤とするのは建学の精神及び「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」という教育理念です。そのうえで、叡智を集め、良心を育み、最先端、いわゆるフロントラインで躍進する同志社を確立して参ります。かねてより法人内、各学校のもとに教職員が結集し、知恵を出し合い、「東京新島講座」、「国際主義教育講演会」や「良心教育に関する

シンポジウム」の開催など、同志社内や関係者に留まらず、一般の方々へと対象とする範囲を広げてきました。

これからも社会的認知を高めるとともに、教職員自らが良心教育への理解、認識を一層深めていくことが大切です。時代の変化とともに、変えるべきものとそうでないものを峻別し、同志社教育の品位と評価を一層高めていくために、必要な資源を最優先で投入する覚悟で取り組んでいきます。

### 一貫教育の新たな展開

同志社教育の強みは、幼稚園から大学院に至るまでの一貫教育体制を貫徹していることです。近年、中高一貫校や小中一貫教育校が増えるなど、従来の6・3・3・4制の枠組みを超えた検討が盛んです。同志社においては、学制改革ではなく、各学校が建学の精神を共有し、各学校の特色を生かした教育の推進、ひいては有為な人物の輩出

に結びつけていくことが望まれています。

このような思いを込めて、一貫教育のさらなる実質化を目指して「同志社一貫教育総合研究所(仮称)」構想を打ち出し、2019年度の開設に向け、積極的な準備活動を始めています。「高大接続」などの教育制度改革はすでに着手されていますが、今後は学校間の推薦制度に留まらず、良心教育に根差した一貫教育体制の有機的結合を完成させ、同志社教育の充実・強化や再評価につなげることを目指して参ります。

同志社の全社員の自立性と能力を最大限に生かす中で、同志社が一貫教育の分野においてもフロントラインになれるように決意を新たにしています。

## 法人ガバナンスの改革

廃棄物の処理及び清掃に関する一連の問題については、教職員並びに関係者の皆様に深くご心配をおかけいたしました。これまでの法人ガバナンス体制、とりわけ内部統制や監査制度に不備があったとの反省から、2017年度は社会的・組織的責任問題の決着と法人ガバナンス改革を最重要課題として取り組んできました。

特に、法人ガバナンス改革については、法人理事会の改革、とりわけ担当理事会審議の実質化、法人部・大学部長の兼務解消、法務室とコンプライアンス推進室の設置という4つの制度改革を推進し、内部統制の拡充、法人ガバナンスの強化を図りました。2017年11月には、法人ガバナンス改革についての最終報告書である「改善状況報告書」の提出も完了するなど、私たちの改革の取り組みは一定の区切りを迎えつつあります。改革が評価され、2017年度私学助成は満額交付となったことはすでに広報した通りです。

教職員及び関係各位のご協力に改めて感謝するとともに、これからもオール同志社の力を結集し、学校法人としてのコンプライアンス意識の高揚と確立に邁進していきたいと考えています。

## 教育環境整備

多様化する学びのニーズに応えるため、近年では大学や女子大学での「ラーニング・コモンズ」の設置や、女子中高の新校舎建設など、各校は様々な教育環境整備と

拡充に取り組んでいます。他方で、同志社幼稚園の園舎の老朽化対策及び幼児教育の重要性、高度化への対応は、長年の課題となっていました。一貫教育の入り口ともいえる同志社幼稚園について、大学には学生寮跡の敷地提供を、女子大学には現園舎跡地利用にともなう資金協力を要請し、支援をいただけることになった結果、2017年5月理事会において、同志社幼稚園の移転・新築に向けての計画が承認されました。新園舎での法人内各学校との更なる教育連携等も視野にいれながら、2020年の開園に向けて、関連部署の協力を得ながら準備作業に着手しました。

## 財政基盤の安定化

現在、少子化などの影響で、私学を取り巻く環境は厳しさを増しています。良心を礎とした同志社の教育・研究活動をさらに推進していくために、法人として財政基盤を安定化していくことは喫緊の課題です。

2017年度は大学の「同志社大学2025 ALL DOSHISHA募金」、女子大学の「ぶどうの樹募金」をはじめ、各校の募金活動を展開・準備するなど、こうした取り組みをさらに押し広げ、募金や補助金などの獲得に最大限に注力して参りました。今後は、記念すべき創立150周年を前にして、これまで築いてきた同志社のネットワークをフルに生かし、外部資金の獲得と開拓に積極的な働きかけを行っていく所存です。

## フロントライン同志社

同志社教育は143年の歴史を刻んできましたが、新島が目指した教育が完成したわけではありません。良心教育という炎を決して絶やすことなく、建学の精神と教育理念を、よりよい形に進化させて次世代へと引き継ぎ、さらなる教育改革に取り組んでいくことが必要です。

2025年に迎える創立150周年に向け、同志社があらゆる分野で最先端、「フロントライン同志社」となれるよう総長・理事長として、渾身の力を振るって邁進していきますので、皆様のお力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。



同志社大学 学長  
まつおか たかし  
松岡 敬

## ALL DOSHISHAで 躍動する同志社を創造

### 学びのかたちの新展開

創立150周年を迎える2025年に向け、同志社大学では「同志社大学ビジョン2025」を掲げ、6つの優先的テーマについて、学生、教職員、さらに卒業生など校友を含めた“ALL DOSHISHA”体制で様々な取り組みを進めています。

2018年度は、「ALL DOSHISHA教育推進プログラム」がスタートしました。これは、14学部16研究科を有する総合大学としてのリソースを最大限に生かすため、ビジョン2025で掲げるテーマに即した質の高い教育プログラムを学内公募により採択、支援するものです。

5つの教育プログラムを採択し、各学部・研究科で培われてきた教育・研究力が大学全体に水平展開され、文理融合やグローバル化をキーワードに本学の特色を生かした学びのかたちの提供で、どのような教育イノベーションが起こるのか、これからの展開に大いに期待したいと思えます。

### 創造と共同による研究力の向上

2017年12月、本学は大学・研究機関としては初めて文化庁地域文化創生本部と研究交流に関する包括協定を結びました。パリなどがそうであるように、単に文化財の

保護・修復という視点ではなく、文化の創造性を生かして新産業や雇用をどのように創出していくかという文化政策に注目が集まっています。本学では、文化芸術創造都市にふさわしい評価指標を確立し、今後の政策支援の在り方について文化庁と共同研究を進めるとともに、全学共通教養教育科目に「クリエイティブ・ジャパン科目」を新設して「感性価値」の創造を担う人物養成に努めるなど、研究成果を教育に還元していこうと考えています。

また、2017年度から取り組まれている同志社大学赤ちゃん学研究センターと理化学研究所との共同研究契約及び確認書に基づき、2018年1月に学研都市キャンパス内に「同志社大学—理化学研究所連携研究室」を設置しました。胎児期からの発達原理と発達障害のメカニズムを解き明かそうという研究で、医学はもちろん、工学や心理学、AIなどの研究者が共に活動できる場を提供することで、文理融合・領域横断による総合的な成果を創出し、本学の研究力を高めていきます。

その他、大学院教育改革やチュービンゲンEUキャンパスの事業などにも積極的に取り組んでいきたいと考えています。今後も、ビジョン一つひとつの施策の実現を目指し、“ALL DOSHISHA”体制で着実に歩みを進めていきますので、皆様のご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 建学の精神を礎に 揺るぎない女子教育を推進

同志社女子大学 学長  
かが ひろお

加賀 裕郎

### 学修するコミュニティ

同志社女子大学の建学の精神は、キリスト教主義、国際主義、リベラル・アーツを基軸とする良心教育です。本学の起源は、1876(明治9)年に京都御苑内の一角で始められた女子塾にあり、それ以来140年を超える歴史を歩んできました。その間、キリスト教主義を中心とする教育方針に揺るぎはありません。

今、グローバル化の進展やAI技術の発達などにより、大学に求められている社会的な要求や要請は変化しつつあります。まさに、「教育研究の質」が問われようとしているのです。こうしたニーズに応じていくため、本学では「Vision150」を策定し、10年後の創立150周年を見据えた長期的な取り組みを進めています。

その一つがラーニング・コモンズの設置で、2017年8月今出川キャンパスの楽真館に、また2018年4月に京田辺キャンパスの聡恵館に新しくオープンしました。学生や教職員が学部学科の垣根を超えて主体的に学び合う「学修するコミュニティ」空間として、図書・情報関連施設と連動した多様な学びの可能性を提供していきたいと考えています。

もう一つ、大学教育の国際化については、従来の英語圏の大学に加えて、中国、韓国、台湾、ベトナム、タイ等の諸大学と協定を結び、学生の派遣や留学生の受入れに積極

的に取り組んでいます。2018年度以降には両キャンパスで留学生向けの学寮整備も行われる予定で、ますます国際交流が活発化していくと期待しています。

### 学修の普遍化、グローバル化

ラーニング・コモンズの設置や国際交流の活発化は、本学のミッションを具現化していくために必要なことですが、一言でいえば、これまでの学修についての考え方や在り方を見直し、大学の学修を普遍化、グローバル化する取り組みであると考えています。膨大な情報が世の中にあふれている今、学修とは単に頭の中に知識を蓄積することではなく、外部にある様々な資源を蒐集・整理しつつ、他の学修者—地域社会の人や異文化の人たち—との共同作業を通して成果を創出する活動へと変化しています。共同学修者が多様化・多文化化するほどに大学の学修は普遍化・グローバル化し、ひいてはそれが教育研究の質向上へとつながっていくのではないのでしょうか。

21世紀社会は女性の活躍がなければ切り開かれませんが、そのためにはまだまだ乗り越えなければならない障壁が横たわっています。同志社女子大学では、これからも女性の成長にとって最適な学修環境・学修機会を提供し、21世紀社会を女性の視点で改革できる人物育成に力を注いでいきたいと考えています。

# 同志社大学

Doshisha University



## DATA

**創立** 1875年

**所在地** 〒602-8580  
京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601  
TEL 075-251-3110

〒610-0394  
京都府京田辺市多々羅都谷1-3  
TEL 0774-65-7010

**URL** <http://www.doshisha.ac.jp/>

## “ALL DOSHISHA”で 未来ビジョンを推進

同志社大学は創立150周年に向け、世界水準の教育・研究活動をさらに発展させ、新たな学びの展開や国際主義の深化など、“ALL DOSHISHA”で「同志社大学ビジョン2025」を推進しています。

### 研究活動の進化・発展

#### 文化庁地域文化創生本部との 研究交流包括協定

2017年11月、文化庁の地域文化創生本部（京都市）が公募した「文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業（平成29年度第1期）」に、同志社大学創造経済研究センターが応募した「文化芸術創造都市に係る評価と今後の在り方に関する研究」が採択されたことを受け、同志社大学と文化庁地域文化創生本部が研究交流に関する包括協定を結び、12月に今出川キャンパスにおいて包括協定の調印式が行われました。文化庁が大学・研究機関と共同研究を実施するのは、今回が初めての取り組みです。

京都をはじめとする文化芸術創造都市では、文化芸術の創造性を生かして、新産業と雇用創出、社会問題の解決などに結びつける横断的な政策に対する評価指標が求められています。このような需要に応え、本共同研究

事業では、文化庁長官表彰を受けた都市と、創造都市ネットワーク日本に加盟する100都市を対象としたアンケートとインタビュー調査等で総合的評価を行い、今後の政策支援のあり方を明らかにしていきます。また、シンポジウムやキックオフセミナー等の開催を通して、学生や地域社会へその成果を発信していきたいと考えています。

この協定の締結を機に、文化庁地域文化創生本部との間でさらなる人的、知的、物的な交流と活用を図り、研究に関わる交流や情報交換を促進していきます。



#### 「同志社大学-理化学研究所連携研究室」が始動

同志社大学赤ちゃん学研究センターと理化学研究所医科学イノベーションハブ推進プログラムの健康医療データ多層統合プラットフォーム推進グループは、「生体リズムに着目した発達障害の解析」や「胎児心電図計測技術の高度化」など多様な共同研究に取り組んできました。

2018年1月、本研究プロジェクトを一層推進していくため、同志社大学学研都市キャンパスに「同志社大学-理化学研究所連携研究室」を設置し、同志社大学と理化学研究所の研究者が共に活動できる場を整備しました。

発達障害の原因は複雑で多岐にわたり、その発生過程は明らかにされていませんが、この連携研究室での人的、知的交流を通して、胎児期からの発達原理と発達障害のメカニズムを解明し、発達障害の新しい診断方法と治療法の開発につなげることを目指しています。

## 同志社大学2025

### ALL DOSHISHA募金を開始

2017年10月、同志社大学では「同志社大学ビジョン2025」を推進していくために、「同志社大学2025 ALL DOSHISHA募金」を立ち上げました。「ALL DOSHISHA」とは、同志社大学に関わるすべての人が共に力を携えることを目指して命名したもので、創立150周年を迎える2026年3月末までに50億円のご支援をお願いすることを目標としています。

「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」では、「同志社大学ビジョン2025」の事業を推進していくため、「リーダー養成プログラム運営支援」「グローバル化の促進支援」「高大接続プログラムの展開支援」を募金対象事業としています。この中長期ビジョンの推進に加え、経常的な取り組みである「奨学金給付」や「課外活動支援」、「施設設備整備」も対象事業とし、募集開始以降、皆様から多大なご協力を賜ることができました。

寄付者の皆様のご支援に感謝し、大学との永続的なコミュニケーションを図るため、クリスマスカードや広報誌などをお届けさせていただくほか、贈呈品や礼遇による顕彰制度も設けています。

同志社大学が掲げるビジョンを着実に進め、良心教育に根差した社会に有為な人物を養成していくために、今後も引き続き募金活動の展開を行ってまいりますので教職員はもとより、卒業生やご父母、企業の皆様方の温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

## 大幅な志願者増と 安定的な大学運営

2018年度(2018年4月)学部入学者の入試実績は、一般選抜入試の志願者が48,367名、センター試験利用入試の志願者については10,229名であり、あわせて前年度比104.4%でした。入学者数は入学定員を充足し、堅調な財政状況を維持しつつ、今後も安定した大学運営を見込んでいます。

入学定員、入学者数、収容定員、在学生数 (2017年5月1日現在)						
学部・研究科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学生数		
<b>学部</b>						
神学部	60	64	240	291		
文学部	670	700	2680	2986		
社会学部	415	497	1660	1936		
法学部	850	881	3400	3692		
経済学部	850	1002	3400	3921		
商学部	850	841	3400	3732		
政策学部	400	467	1600	1791		
文化情報学部	280	334	1120	1293		
理工学部	720	661	2900	3376		
生命医科学部	240	265	960	1061		
スポーツ健康科学部	210	224	840	937		
心理学部	150	182	600	669		
グローバル・コミュニケーション学部	150	155	600	623		
グローバル地域文化学部	180	192	720	822		
合計	6,025	6,465	24,120	27,130		
<b>研究科</b>						
神学研究科	25	20	55	80		
文学研究科	79	36	177	110		
社会学研究科	55	34	128	110		
法学研究科	145	62	305	150		
経済学研究科	55	24	115	39		
商学研究科	70	14	145	32		
総合政策科学研究科	85	43	225	219		
文化情報学研究科	35	17	75	45		
理工学研究科	345	348	720	748		
生命医科学研究科	124	115	262	257		
スポーツ健康科学研究科	11	11	25	26		
心理学研究科	14	12	32	42		
アメリカ研究科	—	—	—	1		
グローバル・スタディーズ研究科	63	43	144	146		
脳科学研究科	10	7	50	33		
司法研究科	70	48	210	142		
ビジネス研究科	75	70	190	168		
合計	1,261	904	2,858	2,348		
総計	7,286	7,369	26,978	29,478		
<b>教員数、職員数 (2017年5月1日現在)</b>						
教員数			職員数		教職員数	
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
809	1,569	2,378	352	197	549	2,927

# 同志社女子大学

Doshisha Women's College of Liberal Arts



## DATA

創立 1876年

所在地 〒610-0395  
京都府京田辺市興戸南鉾立97-1  
TEL 0774-65-8411

〒602-0893  
京都市上京区今出川通  
寺町西入玄武町602-1  
TEL 075-251-4111

URL <http://www.dwc.doshisha.ac.jp/>

## 未来に向かって 深化する女子教育

同志社女子大学は、創立150年に向けて「Vision150」を策定し、開学から長きにわたり女子教育・研究に携わってきた歴史と実績を礎に、グローバル社会で活躍できる国際感覚豊かな人物の育成に取り組んでいます。

世の中がどんどん複雑化し、これまでの常識やルールでは対応が難しくなっている今、新しい知識と技能、柔軟な思考力を身につけ、21世紀社会を『改良』できる女性の活躍が求められています。本学では、2017年度から創立150年を迎える2026年度までの10年間の未来像を示す「Vision150」を策定し、「創造性を育む教育の推進」や「『学修するコミュニティ』の構築」など様々な目標を掲げ、自らの意思を持って社会に参画し、豊かな世界づくりに寄与できる人材の育成に努めています。

同時に、ますます多様化する教育ニーズに対応していくため、大学院看護学研究科の新設や今出川・京田辺両キャンパスの整備を進め、より高い水準の教育・研究を実現していきます。

### 今出川キャンパス整備 アクティブラーニング実践の場

2013年8月より実施してきた本学のキャンパスの整備事業も、いよいよ完成を迎えました。歴史的建造物が多い

今出川キャンパスでは、耐震化を含む安全・安心なキャンパスの実現はもちろん、ゾーニングを基本とした施設の配置により、合理的で機能的なキャンパス整備を行いました。また、全学共通のコミュニケーションスペースの充実、アメニティの高い福利厚生施設の整備など、快適な学生生活を過ごせるだけでなく、自発的に学修できる環境づくりも視野に入れて整備を進めてきました。

新心館は、生活科学部食物栄養科学科の学びの中心となる教育研究棟で、地上3階、地下1階の施設内には、調理実習室や給食経営管理実習室、実践栄養学実験室などを設置しました。新約聖書を出典とする「新心」は、学内寮、学生福利厚生施設で大切に継承されてきた伝統のある館名です。新棟がこの館名を継承することで、キャンパスに培われたキリスト教主義が次代に伝えられることが期待されます。

また、2017年8月に竣工した楽真館は、今出川キャンパスで中核となる施設です。新たに設置した「ラーニング・



「コモンズ」では、本学の教育理念であるリベラル・アーツに根差した能動的学修(アクティブラーニング)の実践の場として、プレゼンテーションやグループワーク、セッション、講演会など様々な教育研究活動に利用されます。

その他、心和館食堂の拡張や課外活動施設の整備など、充実した教育・福利厚生環境づくりで、快適な学生生活をサポートします。

## 京田辺キャンパス整備 学修するコミュニティを具現化

京田辺キャンパスでは、聡恵館を中心としたキャンパス整備事業を実施しました。2017年1月には、友和館に多目的ホールや課外活動施設が完成したほか、知徳館の中庭スペースを使ったコンビニエンスストアが設置されました。加えて、今出川キャンパス同様、学生や卒業生の能動的な学びを後押しする「ラーニング・コモンズ」を2018年4月にオープン、またウィンクルムの庭を整備して新たに恵愛館(食堂棟)を新設。ガラス扉で構成されたオープンな雰囲気のある食堂には50席のテラス席が用意され、四季折々に彩られた美しい庭との調和が魅力的な空間です。

今後、こうした施設を活用し、有機的に連携させていくことで、本学に集う学生、教員、職員が共に学び、共に支え合いながら成長していく共同体の形成を目指します。



## 5つめの研究科となる 大学院看護学研究科を開設

本学では2015年4月に看護学部看護学科を開設し、新島裏が目指した理想の女子教育を掲げ、京田辺と今出川の2つのキャンパスで6学部11学科、1専攻科、4研究科7専攻を総合的に展開してきました。

2018年4月には、5つ目の研究科となる大学院看護学研究科看護学専攻修士課程を新たに開設し、看護学研究分野(入学定員3名)と助産学実践分野(入学定員3名)の2つの分野を設けました。なお、助産学実践分野では助産師国家試験の受験資格を得ることができます。

理論と実践に基づいた研究能力およびエビデンスとナラティブを統合できる看護実践能力を備え、看護現象を探究し、看護学の発展と健康・福祉の向上に寄与できる人材として、リサーチマインドを有し臨床における判断力や指導力、専門的知識と技術の向上・開発を目指す看護職者、精深な学識と研究能力を修得し教育研究者を目指す看護職者、時代の流れに沿った医療環境の大きな変化に対応できる高度な知識・技術を有した助産師の養成を主たる目的としています。

## 志願者数は減少するも 大学運営は堅調に推移

2018年度(2018年4月入学)の出願実績は、一般入試志願者数が7.2%減少の7,440名となりました。入学人数は入学定員の1.06倍(1,482名)で、今後も堅調な財政状況を維持しつつ、教育・研究のさらなる充実を図ります。

入学定員、入学人数、収容定員、在学生数 (2017年5月1日現在)				
学部・研究科名	入学定員	入学人数	収容定員	在学生数
学部				
学芸学部	315	349	1,270	1,402
現代社会学部	400	452	1,610	1,788
薬学部	120	124	720	792
看護学部	80	90	240	244
表象文化学部	265	289	1,095	1,247
生活科学部	215	252	860	975
合計	1,395	1,556	5,795	6,448
研究科				
文学研究科	31	9	70	21
国際社会システム研究科	10	1	20	4
薬学研究科	4	2	16	6
生活科学研究科	13	10	26	16
合計	58	22	132	47
専攻科				
音楽専攻科	20	19	20	19
合計	20	19	20	19
総計	20	19	20	19

教員数、職員数 (2017年5月1日現在)					
教員数			職員数		教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計
197	549	746	77	85	162
					総計
					908

# 同志社中学校・高等学校

Doshisha Junior and Senior High School



DATA

創立 1875年

所在地 〒606-8558 京都市左京区岩倉大鷲町89  
TEL 075-781-7121

URL <http://www.js.doshisha.ac.jp/>

同志社中学校・  
高等学校

きむら よしみ  
木村 良己 校長



知識や技術は教え込むことは出来ますが、生命(いのち)や心、同志社が大切にしている「良心」は教え込むことは出来ません。むしろ、自ら感じ取り、学び取るものです。そうした感じ取り、学び取ることが出来る「時間・空間・仲間」を整えることが、教育者の使命です。

「何のために生まれて、何のために生きるのか？」を問い続け、人の幸せを願い、人の不幸を悲しむことが出来る「生き方がハンサムな同志社人」として、「未来に備えて自分のために堅固な基礎を築く(テモテ6:19)」ための学びが、ここIWAKURAにはあります。

## 生き方がハンサムな同志社人が育つ!

### 自ら感じ取り、学び取る教育

「キリスト教主義」については、「学校生活の始まりにふさわしい礼拝」の充実を掲げ、全校礼拝、合同礼拝等を通して良心探求ウィークや施設訪問などを実施し、「キリスト教を徳育の基本」とする良心教育の充実に努めました。

「自由主義教育」については、知的好奇心や学びを深める各教科活動はもとより、生徒の自主性を大切に「同志社人」に期待される人間力形成を行いました。HOME-BASEを設置した中学の「教科センター方式」と、HOME-ROOM教室を中心に据えた高校の「特別教室方式」という発達段階に応じた同志社一貫教育を継続推進したほか、ICT教育においてもi-Padによる学習活動で、21世紀型スキルの育成に取り組みました。



「国際主義」については、中学ではヌエバ(アメリカ)やベツレヘム(ニュージーランド)でのホームステイ語学研修、海外研修プログラムの充実、イングリッシュキャンプなど国内外のプログラムを実施。高校では、夏秋のウェズリーカレッジ(オーストラリア)との相互交換留学、春の立石ファンドを活用したヌエバへの派遣、IWAKURAキャンパスでは国内交流プログラム「エンパワメント・プログラム」を実施しました。



2018年度「中学入試」については、一般入試では494人の志願者があり、学内進学者を合わせて292人の新入生を迎えました。「高校入試」では、一般入試と推薦入試を合わせて324人の志願者があり、学内進学者を含め354人の新入生を迎えました。

#### 入学定員、入学者数、収容定員、在学者数 (2017年5月1日現在)

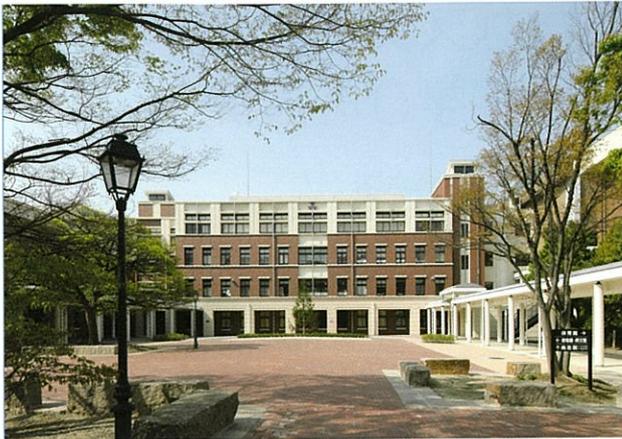
	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
中学校	288	293	864	879
高等学校	360	370	1,080	1,080
合計	648	663	1,944	1,959

#### 教員数、職員数 (2017年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数 総計
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	
88	57	145	11	13	24	169

# 同志社香里中学校・高等学校

Doshisha Kori Junior and Senior High School



DATA

創立 1951年

所在地 〒572-8585 大阪府寝屋川市三井南町15-1  
TEL 072-831-0285

URL <http://www.kori.doshisha.ac.jp/>

## 同志社香里中学校・高等学校

たき えいじ  
瀧 英次 校長



本校では、確かな学力の形成はもちろんのこと、人間性と生きる力を育む教育に力を注いでいます。次期学習指導要綱では、自ら学ぶ態度や行動力、思考力の育成に重きを置いています。それは本校が今まで取り組んできた教育目標そのものであり、週6日制の授業やiPadによるICT教育などを通して、さらなる教育の深化を目指していきたいと考えています。

知性も個性も感性も育ち盛りの子どもたちが様々な出会いと交流の中で成長し、広い世界に自信をもって進んでいけるよう全力で支えていきます。

## 香里で紡ぐ良心教育

### 確かな学力と豊かな個性を涵養

財務諸表・学校評価報告書を公開しました。財務状況は堅調に推移しており、安定的な学校運営に取り組んでいます。また、学校評価については、総合的な肯定的評価が90%を超えており、生徒や保護者にとって満足度が高い学校であることが伺えます。

国際交流事業としてハワイへの修学旅行やカナダへの語学研修などのほか、アメリカやイギリスの交流校からの生徒受け入れも積極的に行っています。また、英語でのスピーチやプレゼンにも力を入れており、「同志社 英語プレゼンテーション大会 -立石杯-」では毎年好成績を残しています。

高大連携活動では、2017年8月に同志社大学生命医科学部や同志社女子大学薬学部と連携し、「香里生のための一日実験セミナー」を開催しました。いずれもライフサイエンスへの関心を高めるプログラムで、生徒たちは目を輝かせて実験に参加していました。

高校生模擬裁判選手権 関西大会では3年ぶり2回目の優勝を勝ち取ったほか、外資系企業でのインターシップなど、学外での活動も積極的に行っています。

クラブ活動では、ダンス部が中学、高校ともに日本ダンス部選手権大会で優勝。レスリング部は国体で第3位の成績



を収めました。水泳部は高校生がインターハイ第3位、中学生は全中大会で第3位になり、9月にウズベキスタンで行われたアジアエイジグループ選手権に出場して優勝しました。

文化部も成果をあげています。マンドリン部は全国コンクールで振興会特別賞(全国6位相当)と16年連続となる優秀賞を受賞。書道部は高野山競書大会で金剛峯寺賞(全国3位相当)を、吹奏楽部も大阪府代表として出場した関西吹奏楽コンクールで銀賞を受賞しました。文武両面で生徒たちの活躍が目立っています。

2018年度中学入試は前後期合わせた志願者数が前年度より180名余り増え過去最高を記録しました。高校入試でも優秀な生徒を確保できています。

### 入学定員、入学者数、収容定員、在学者数 (2017年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
中学校	240	250	720	749
高等学校	315	306	945	928
合計	555	556	1,665	1,677

### 教員数、職員数 (2017年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
67	40	107	9	1	10	117

# 同志社女子中学校・高等学校

Doshisha Girls' Junior and Senior High School



DATA

創立 1876年

所在地 〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町  
西玄武町602-1  
TEL 075-251-4305

URL <http://www.girls.doshisha.ac.jp/>

## 同志社女子中学校・ 高等学校

つじむら よしみ

辻村 好 校長



女子中高には女子部特有の香りや色合いがあります。キリスト教主義教育を大切に守り受け継いできた女子部の長い伝統が作り出してきたものなのでしょう。キャンパスの風景は大きく変わりましたが、その香りや色合いは変わることなく、ここに 있습니다。

大規模な校地整備が終わり、ようやく落ち着いた中で、生徒たちは学校生活を始めました。この間、限られた空間と様々な制限の中で、知恵を出し合い、力を合わせてきた経験は、生徒たちを大きく成長させてくれました。生徒たちが掲げた2017年度文化祭テーマは「同女(オトメ)開花宣言」。これから彼女たちが新たなステージでどんな花を咲かせてくれるか、楽しみにしています。

### 入学定員、入学者数、収容定員、在学者数 (2017年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
中学校	240	246	720	742
高等学校	270	264	810	802
合計	510	510	1,530	1,544

### 教員数、職員数 (2017年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数	
専任教員	委託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計	
66	37	103	8	6	14	117	

## 新たなステージで 多様な学びを展開

### 新たな伝統の歩み

2013年度から続けてきた校内施設の整備が完了し、2017年度は今まで培ってきた伝統を礎に、新たな環境のもとで多様な学びや行事に取り組みました。1903年に宣教師ミス・デントンによって始められたバザーは、工事中は規模を縮小して行ってきましたが、2017年度は多くの卒業生もお招きして開催することができました。生徒会が中心となり東日本大震災や熊本地震の復興支援のために様々な企画をし、キリスト教に基づく奉仕の精神を大切にしている伝統行事を継承しました。

また、この間、府立体育館をお借りして実施してきた体育祭も学校のグラウンドに戻りました。企画・運営のすべてを生徒たちの手で行う行事の一つ。中学・高等学校の全生徒1,550人が人工芝の新グラウンドを最大限に活用して、多彩な競技を繰り広げました。



新しく整ったステージで、生徒一人ひとりの豊かな発想力と若い繊細な感性が様々な形となって表現されていく様子を目の当たりにして、新しい時代の歩みが始まったことを感じる1年でした。

課外活動ではアーチェリークラブが「全国高等学校アーチェリー選抜大会」で個人準優勝に輝いたほか、インターハイでは個人5位に入賞。また、箏曲クラブが「全国高等学校総合文化祭」への出場を決めるなど、生徒たちは学習、スポーツ、文化活動に幅広く活躍しています。



# 同志社国際中学校・高等学校

Doshisha International Junior and Senior High School



DATA

**創 立** 1980年

**所在地** 〒610-0321 京都府京田辺市多々羅都谷60-1  
TEL 0774-65-8911

**URL** <http://www.intnl.doshisha.ac.jp/>

同志社国際中学校・  
高等学校

かわい くにたか  
**川井 国孝** 校長



日本で最も多くの帰国生徒を受け入れている本校では、30ヶ国を越える世界の様々な国や地域から帰国した帰国生徒と国内一般生徒が共に学んでいます。多くの科目で習熟度別クラスを編成し授業を行っているので、一人ひとりに合った授業を受けることができます。また、ホームルームクラスは帰国生徒と一般生徒が混ざっているので、お互いの経験を共有することができます。そのため、文化や価値観に基づく多様な考え方や個性があることを理解し、そして互いに尊重し合う心が自然に育つ環境を実現しています。

グローバル化が進む社会で力を発揮し、社会に貢献できる人物の育成を目指しています。

## 個性を輝かせる グローバル教育を実践

### SGH(スーパーグローバルハイスクール)の取り組み

SGHは指定3年目となり、ヨーロッパのフィールドワークに行った生徒たちが高校3年生の学びの中で、自分たちが考えた政策をまとめ、それを京田辺市役所に提言することができました。2018年2月17日には、同志社大学今出川キャンパス良心館にて、同志社大学の先生方にもご参加いただき、本校の「2017年度SGH活動報告会」を開催しました。



### フードバンクの取り組み

本校の高校生が、世界の環境問題を学ぶ中で、高校生として何か社会に貢献できることはないか、ということを考えました。そこで、生徒会が中心となり、フードバンクの活動に学校全体で取り組み、70kgを越える食品の寄付を集めることができました。これは、まだ食べられるのに様々な理由で廃棄されてしまう食品を持ち寄り、それを困っている人たちに届けるという活動です。最終的に廃棄されてしまう食品を少しでも有効活用することで、社会の環境負荷を小さくすると同時に困っている人たちへの支援につながるものです。

### その他の取り組み

GEC(グローバル・エンタープライズ・チャレンジ)は参加希望者が増え、2017年度は本校から3チームが国内予選にチャレンジしました。

その他、同志社の英語大会や外部の大会にも積極的に参加し、優秀な成績を残しています。



入学定員、入学者数、収容定員、在学者数 (2017年5月1日現在)				
	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
中学校	130	125	420	394
高等学校	270	270	810	832
合計	400	395	1,230	1,226

教員数、職員数 (2017年5月1日現在)						
教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
55	81	136	6	4	10	146

※国際中学校の定員について  
2015年から収容定員を1学年40名ずつ増員、2015年度340名、2016年度380名、2017年度以降420名

# 同志社小学校

Doshisha Elementary School



DATA

創立 2006年

所在地 〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町89-1  
TEL 075-706-7786

URL <http://www.doshisha-ele.ed.jp/>

## 同志社小学校

うちやま いちろう  
内山 伊知郎 校長



開校以来、「道草教育」を掲げ、同志社小学校のすべての科目において教育の柱としています。道草教育では一人ひとりが問題意識を持って、身の回りの中からテーマを発見し、調べ、発表する、いわゆる学びのプロセスを大切にしたり取り組みで、その研究成果は多くのコンテストやコンクールで高い評価を受けています。

子どもたちの感受性豊かなこの時期に、本校の教育環境の中で探究心や創造力を育み、自由で柔軟な思考スタイルを修得することで、将来、グローバル社会で能力や個性を発揮できる人となる教育を目指しています。

入学定員、入学数、収容定員、在学者数 (2017年5月1日現在)				
	入学定員	入学数	収容定員	在学者数
小学校	90	89	540	539

教員数、職員数 (2017年5月1日現在)						
教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
28	19	47	2	2	4	51

## 一人ひとりの学びの ところを育てる「道草教育」

### 「良心教育」の精神

同志社と縁の深いジェーンズ邸が熊本震災で大きな被害を受けたことから、本校の保護者有志が再建のための義援金を募り、熊本の皆さんに手渡しました。WR活動(縦割り活動)の全校集会では、くまモンが登場し、体操を習ったり写真を撮ったり楽しい時間を過ごしたほか、熊本と同志社のつながりを深く学ぶ教育教養セミナーを開催するなど、本校が実践する良心教育の精神に触れる一日となりました。



### 「道草教育」を实践

本校が実践する「道草教育」の考えに立った「授業づくり研究会」を開催し、すべてのクラスで授業を公開しました。2017年度は法人内の各学校、及び私立小学校連合会加盟校から108名が参加。積み上げてきた「価値」を学びに持ち込み、探究心や創造力を育てている子どもたちの姿に、たいへん高い評価をいただきました。これからはさらに良い授業を求め、同志社小学校の子どもたちと共に「道草教育」を实践していきます。

### 「国際交流」の推進

2017年度は、本校が交流協定を結ぶ台東大学附属小学校に31人の児童が訪問しました。5年間の交流で同志社小学校から初めての台湾訪問となります。原住民のアミ族施設を見学したほか、原住民の暮らしや民話から自然環境の大切さについて学んだり、持参したタマネギを使って自然染めで手ぬぐいやのれんにメッセージを染めたりするなど、多様な協働学習を通して、言語や文化、考え方を超えた交流を深めることができました。



# 同志社国際学院

Doshisha International Academy - DIA



DATA

創立 2011年

所在地 〒619-0225 京都府木津川市木津川台7-31-1  
TEL:0774-71-0810URL <http://www.dia.doshisha.ac.jp/>

## 同志社国際学院

おおた てつお  
太田 哲男 校長



同志社国際学院では、グローバルを一つのキーワードとして、子どもたちの健やかなる成長を目指して取り組んでいきます。

初等部では、授業において、英語が日本語より多く使われるようなカリキュラムを作り、かつ探究型の学びを実践してもらいます。この探究型の学びは、国際バカロレアのプログラムでもあり、その認定を受ける予定で進めています。

国際部は、International Schoolとして、WASCやIBの認証を継続することで、世界中で活躍できる生徒の育成に取り組んでいきます。

共通する国際バカロレアプログラムは、同志社の目指す“良心教育”とも深いつながりを持つシステムということが出来ます。

### 入学定員、入学者数、収容定員、在学者数 (2017年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
初等部	60	50	360	319
国際部	grade1~12	75	20	300
合計	135	70	660	390

### 教員数、職員数 (2017年5月1日現在)

教員数		職員数			教職員数	
専任教員	嘱託講師	専任職員	有期職員	職員合計	総計	
46	3	49	3	2	5	54

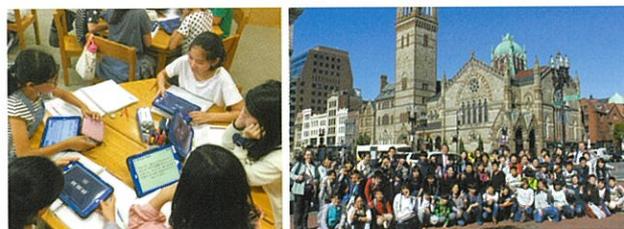
## Learning for Life, Learning for World

### 初等部：日英バイリンガル教育と PYPに沿った探究型学習

1～6年生が学ぶ初等部の教育の2本の柱の一つは、イメージプログラムによる日英バイリンガル教育で、開校当初から文部科学省の教育課程特例を得て、6年間の授業時間の半分以上を英語で行いながら、学習指導要領の内容を英語で学んでいます。

もう一つの柱は、国際バカロレア(IB)の初等教育課程プログラム(PYP)の認定取得を目指しており、PYPに沿った探究型学習により学習指導要領の内容を学んでいることです。

これらを通じて、21世紀を切り拓き、国際舞台で活躍できる人材の基礎となる力を育てています。



### 国際部：同志社大学の全学部への 指定校推薦進学制度

1～12年生が学ぶインターナショナルスクール(DISK: Doshisha International School, Kyoto)での授業は全て英語で行われ、1～5年生はPYP、11～12年生はDP(Diploma Programme)を履修しています。DISKは既に両プログラムの認定をIBから取得しています。

2017年度からは、同志社大学の全学部への指定校推薦進学制度による進学者が出ています。2018年9月から新1年生の募集は停止するものの、在校生がいる学年には編転入の募集を継続します。



# 同志社幼稚園

Doshisha Kindergarten



DATA

創立 1897年

所在地 〒602-0836 京都市上京区今出川通寺町  
西入常盤井殿町543-1  
TEL 075-251-4391

URL <http://kinder.doshisha.ac.jp/>

## 同志社幼稚園

きたがわ まさあき  
北川 雅章 園長



幼稚園は、同志社一貫教育の最初の入口でもあるのでキリスト教主義に基づいた人格形成を主軸に豊かな感性や思いやりの心を育てる教育に力を注いでいます。目に見える技術的な教育内容だけではなく、園児たちが想像を膨らませて主体的に「こんなことがしたい!」という意欲と関心を持ち、園児たち同士で創り上げていく保育も強化しています。

自分の思いや考えを相手にしっかりと伝えて互いに共有、共感をしながら人間関係を深めていきます。多感な幼児期の中で人間としての根幹を大切に園児の成長を育てています。

入園定員、入園者数、収容定員、在園者数 (2017年5月1日現在)				
	入園定員	入園者数	収容定員	在園者数
幼稚園	30	29	100	92
教職員数 (2017年5月1日現在)				
	教職員数			
	総計			
	11			

## 豊かな感性と学びを育み表現する力を培う

### 手作り絵本を製作

幼稚園で身に付けた絵画の経験をもとに、年長組では絵本作家の先生をお招きして「手作り絵本」を製作する取り組みを行っています。水彩絵具による様々な技法、表現やコラージュなど、先生が見本を見せると歓声を上げ、興味深く見入って自らもやってみようとする子どもたちの姿がありました。

年間10回の指導を経て、3月には親子で製本作業に挑戦したり、世界で一つの手作り絵本をみんなの前で発表することができました。



### 縦割りでの保育活動

年間を通じて、学年を超えた日常的なふれあいや、保育活動を大切にしています。異年齢での関わりを通して、年少児は年長児に憧れの気持ちを持つとともに、年上の友だちは、年下の友だちをお世話しよう、見本を示そうとする気持ちが芽生えます。縦割り保育では、個々の子どもがクラスの保育で身に付けた自らの力を、縦割りの場面で発揮することもできます。

今年度は、全園児で運動会のダンスに取り組んだり、クリスマス礼拝・祝会ではオペレッタに挑戦、3学期にはクラブ活動を行いました。クラブでは、子どもたち一人ひとりが運動チーム、音楽リズムチーム、ダンスチームから好きな活動を選択し、縦割りで取り組みます。1年間を通じて、発達段階や子どもが関わる力を考慮しながら、カリキュラムを工夫しています。



# 同志社大学2017年ハイライト

ハイライト

## 1 キャンパス整備事業

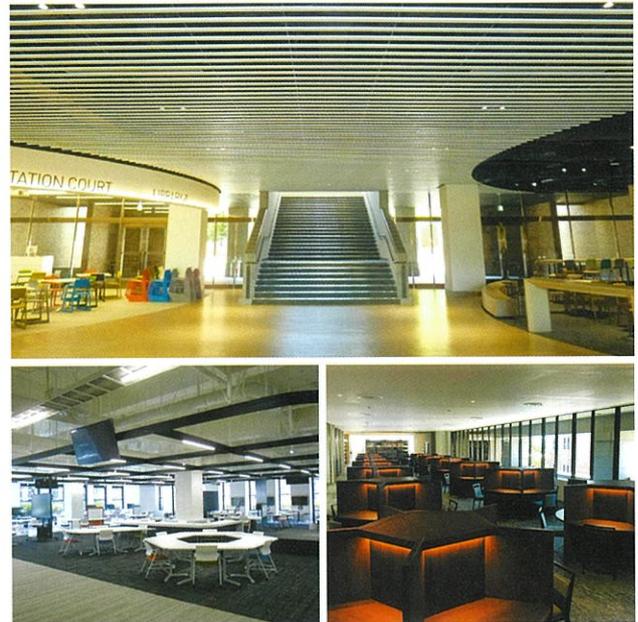
### 「ラーネット記念図書館」改修工事を完了

2018年1月15日、ラーネット記念図書館(京田辺キャンパス)は、改修工事を終え、リニューアルオープンしました。今回、1階フロアに設置した「ラーニング・コモンズ」では、壁面のスクリーン・プロジェクターを使って各種プレゼンテーションやワークショップ、グループワーク等が行えるスペースを始め、アカデミック・インストラクターやラーニング・アシスタントらによる総合的な学習支援が受けられるサポートエリアを整備しました。

また、2階フロアには、語学学習や異文化理解を深めるための資料を備えた「グローバル・ラボ」を新たに設置し、さらに2階、3階の各フロアには学びのスタイルに合わせて利用できるセルフラーニングに対応した学習スペース等、多様な設備を整えました。

新装ラーネット記念図書館は、アクティブ・ラーニングとグローバルな学習支援機能を持った新しい「知」のプラット

フォーム空間として、学生たちの自主的かつ幅広い学びの要望に応じていきます。



ハイライト

## 2 社会との連携

### 「京都国際調停センター」を設置

2017年10月29日に、同志社大学(大学院法学研究科及び司法研究科)と公益社団法人日本仲裁人協会(以下、JAA)が締結した「京都国際調停センターの運営等の協力に関する協定」に基づき、同志社大学を本拠とする国内初の「京都国際調停センター」を設置することになりました。

「調停」とは、交渉当事者や紛争当事者の間に調停人が入り、合意に至る支援を行うことです。わが国ではまだまだ馴染みはありませんが、国際ビジネス紛争を解決する手段として、従来の訴訟や仲裁に代わって、近年この「調停」が世界的に注目を集めるようになってきました。欧米などでは「調停」が当たり前利用されており、合意に至る成功率は8割以上とされています。アジアでも、シンガポールが2014年に国際調停センターを設置しました。

今後、同志社大学では、JAAと連携して「京都国際調停センター」の運営に協力するとともに、日本企業に対して友好的かつ安価で迅速な紛争解決の場を提供し、国際調停に関するノウハウの蓄積や教育・研究、国際調停に携わる人材育成などに取り組んでいく予定です。



# 同志社大学2017年ハイライト

## ハイライト 3 教育・研究

### 科学研究費助成事業 採択件数、過去最高に

2017年度の科学研究費助成事業の採択件数は449件、金額は998,267千円(間接経費を含む新規および継続の合計)と過去最高となりました。文部科学省による発表(2017年10月10日)における採択件数ランキングにおいても、採択件数で過去最高の全国38位(私立大学8位)、採択金額で全国40位(私立大学7位)となりました。

種目別では、「宗教学」や「公共政策」が全国1位になったほか、「子ども学」や「ジェンダー」、「英語・英米文学」など、特色ある研究分野が全国10位以内の採択件数となっています。

同志社大学では、人文・社会学から自然科学にわたるあらゆる分野の研究を推進し、さらなる飛躍を目指していきます。



## ハイライト 4 社会との連携

### 「全国市町村長クローバー会／九州メディア・クローバー会」が設立

同志社大学で学び、現在では地方行政の舵取りを担う市町村長19人により、2017年8月20日「全国市町村長クローバー会」(会長:堀口文昭・京都府八幡市長)が設立されました。各市町村長同士の情報交換と親睦を図り、地域創生、地方自治の推進を図るとともに、地方行政の振興の観点から、同志社大学との連携を進めていきます。

教養教育科目である「メディア・プロフェッショナル実践講座」に講師を派遣いただいている同志社メディアクローバー会(会長:河内一友・MBS会長)とともに、各エリアにおけるメディアとの連携強化に努めていきます。



## ハイライト 5 社会サービスの充実

### 「同志社大学／同志社大学学生カード」を発行

同志社大学では、学生や卒業生・教職員など大学に関わる方々の愛校心に応え、同志社大学ブランドの象徴となる大学公式のクレジットカード「同志社大学カード／同志社大学学生カード」の会員募集を開始しました。

同志社大学カードは、ご利用いただいた金額に応じて、手数料がクレジットカード会社から大学に還元されます。大学では、この手数料全額を在学生への奨学金として活用いたします。(カード会員の皆様に手数料をご負担いただくことはありません)

同志社大学学生カードは、利用可能枠を低く抑え、旅行傷害保険やお買物安心保険のサービス機能が付いており、留学や海外旅行をはじめ、キャンパスライフの頼もしい味方として安心してご利用いただけるカードとなっています。



## ハイライト 6 省エネの取り組み

# 6 温室効果ガス排出量削減で市・府からダブル表彰

京都市・京都府の地球温暖化対策条例では、学校法人同志社など特定事業者（年間エネルギー使用量原油換算1,500kl以上の事業所）に対して、事業者排出量削減計画書の提出など様々な義務規定を定めています。

同志社大学では、第二計画期間（2014～16年度）において、空調の設定温度（夏期28度・冬期20度）や照明の管理徹底（節電・LED導入等）、老朽化した機器を省エネタイプへ更新するなどの取り組みにより、3年間で5.6%（基準年度比、CO2換算）の削減率を達成。実績評価の結果、市・府ともに「S評価」（優良事業者）となり、京都市（2017年12月22日）、京都府（2018年1月29日）

から表彰を受けました。業務部門における優良評価は市では26事業者、府ではわずか16事業者です。今後も地球温暖化防止に向けて高い意識を持ち、より一層の省エネに取り組んでいきます。



## ハイライト 7 教育・研究

# 7 「科学するガールズ」養成プログラムを展開

女子中高生の理系進路選択をサポートするために、同志社大学では2016年度から「科学するガールズ」養成プログラムを展開しています。2017年度は、本学の理系教員や女子学生が中学・高校を訪ねて興味深い講義や実験を行う「出前講座」や、本学教員と保護者、中学・高校教員が意見交換を行う「ガールズリーダー交流会」などに取り組み、予定を上回る参加者がありました。

特に、「ガールズサイエンスキャンプ」では、株式会社

椿本チェーン京田辺工場を2泊3日で見学し、「理系の魅力」を感じる様々なグループワークや実験に挑戦してもらうなど、女性研究者やエンジニアなどとの交流を通して、理系の魅力を伝えることができました。



## ハイライト 8 社会との連携

# 8 地域に浸透する「おけいこ」

同志社大学では、「習い事」で地域社会に貢献する「同志社大学のおけいこ」に取り組んでいます。2008年4月にスタートした「同志社大学 京町家異世代協同プロジェクト でまち家」で行っていた町家サークル活動を発展させたもので、学生支援センターが中心となって企画運営し、地域の小学生たちに様々な習い事を提供しています。

2017年度は、手話や書道、能楽、将棋など8講座を開催しました。子どもたちだけでなく、保護者も数多く参加

し、異世代協同・異世代交流につながっています。今後も地域貢献・交流を活発に進めるとともに、「心の通い合い」を通して、学生が成長する場にしていきたいと考えています。



# 同志社女子大学2017年ハイライト

ハイライト

1

地域と連携した社会活動

## 学生主体の「同志社女子大学まちづくり委員会」が始動

同志社女子大学の社会連携事業の一環として、大学の立地する京田辺地域を自慢できるまちにすべく、まちづくりに興味を持つ学生メンバーを募集し、2017年7月「同志社女子大学まちづくり委員会」を結成しました。約20名の学生が主体的に活動に携わり、京田辺市特産の玉露PRプロジェクトでは、本学学生への周知を目的とした試飲会やワークショップを開催し、好評を博しました。

また、「全国玉露のうまい淹れ方コンテスト」に出場した学生の1名が優勝し、見事日本一の座に輝きました。他にも高齢者と一緒に京田辺市オリジナル介護予防体操を

行う「げんき推進」、地域の小学校で英語の歌やゲームを教える「えいごであそぼ」プロジェクトの推進や「スポGOMI」「いす-1GP」など地域のイベント、京田辺市の課題解決のための政策提言を行う「政策フォーラム」に参加するなどし、地域との連携を深めています。



ハイライト

2

卒業生へのキャリア支援

## 「同志社女子大学キャリアサロン」等を実施

同志社女子大学では、自分が望む生き方について考え、自己研鑽を積み重ねながらキャリア形成できるよう、卒業後も支援を行っています。2016年にはOG有志の協力により、働く卒業生同士の情報交換や勉強の場を提供する「同志社女子大学キャリアサロン」を立ち上げました。2017年度は11月に今出川キャンパスで、2月に東京と大阪で異業種・異職種交流を行いました。

その他、資格取得支援事業として、従来の通学型に加え、2017年度より「WEB資格講座」を開始しました。簿記や

社会保険労務士、TOEICなど、キャリア形成に役立つ27資格・講座が年間利用料1万円を支払えば、全て受講することができます。遠方の卒業生や、仕事や子育てで忙しい卒業生も効果的に学習することが可能になりました。



ハイライト

3

学科の特長を生かした総合科目

## 「学芸学部ジョイントプログラム」を開講

2017年度秋学期より、学芸学部3学科(音楽・情報メディア・国際教養)が合同で行う「学芸学部ジョイントプログラム」を開講しました。これは3学科の学びの特長を生かして、様々な角度からプロジェクトを創造し、協同・協働することを通して、一人ひとりがさらなるスキルを開拓し、コラボレーションによる大きな課題に挑戦することを目的に設置された統合科目です。

2017年度は、ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」

のワンシーンを英語で上演することに挑戦しました。学生たちは発声や英語の発音指導、歌唱指導、ダンスの振り付け、衣装、メイキング映像の制作等を分担して準備を進め、12月18日、20日に京田辺キャンパス頌啓館ホールで「ドレミの歌」などを披露。プロジェクトを通して、新たな学びの展開につながりました。



# 各学校2017年ハイライト

ハイライト

1 同志社中学校・高等学校

## グレイス・チャペルにパイプオルガンを設置

宿志館グレイス・チャペルに、待望のパイプオルガンが設置されました。3段の手鍵盤と足鍵盤、35ストップ、木製・金属製パイプ合わせて2,241本。風によって空気を振動させる素敵な音色が、3階から降り注ぐチャペルでの「贅沢な時間」を大切にしています。

2014年11月、(株)望月オルガンの監修によりドイツ：Weimbs社と契約。詳細設計の後、ドイツの工房で職人たちの手によって一本一本形づくられ、船舶と大型トレーラーで搬入されたのが2017年4月。約4ヶ月かけて、グレイス・チャペルに形も音もぴったり合うように整音作業が重ねられ、11月4日「パイプオルガン奉獻：記念礼拝・記念演奏会」が行われました。

グレイス・チャペルに形も音もぴったり合うように整音作業が重ねられ、11月4日「パイプオルガン奉獻：記念礼拝・記念演奏会」が行われました。



ハイライト

2 同志社香里中学校・高等学校

## 「高校生模擬裁判選手権 関西大会」で優勝

2017年8月5日、大阪地方裁判所で開催された第11回高校生模擬裁判選手権 関西大会で、3年ぶり2回目の優勝を果たしました。

競技は「日本弁護士連合会が作成した教材集に示された証拠(証拠物や調書等)に基づき、出場校が検察側・弁護側の各立場に立って主張・立証活動を行い、審査員が各参加校の立論及び立証の内容を評価して採点し、その総合得点で勝敗を決する」(実施要項より)ことになっています。

本校は2014年に優勝した後、2015年と2016年は

準優勝に甘んじていたため、今年は絶対優勝するぞという強い意思を持ち、夏休みに入ると毎日集まって準備を進めてきた結果、検察側・弁護側ともに満足できる主張・立証活動を行うことができました。



ハイライト

3 同志社女子中学校・高等学校

## 「スプリング イングリッシュ キャンプ」を実施

2018年3月、中学1年生対象の2泊3日の国内研修「スプリング イングリッシュ キャンプ」を新たに実施しました。研修には、「コミュニケーションの楽しさの実感」、様々な国籍の講師陣との交流による「異文化理解」、英語漬けの環境の中での「英語発信力の育成」の3つのテーマがあります。

授業は1クラス9～10名の少人数で、スピーキング力やリスニング力、表現力などを身につけるため、様々な角度から授業が構成され、英語での発信力を高めていきました。

オーストラリア、ジャマイカ、フィリピン出身の3名の講師と交流し、異なる英語に触れ、それぞれの出身国について学び、異文化理解を深めました。スポーツやクイズ大会など、体を動かして楽しく学ぶ機会も多くありました。

生徒達にとって英語漬けの環境はとても新鮮だったようで、純粋に楽しみ、また、熱心に学ぶ姿勢が見られ、充実した研修になりました。



# 各学校2017年ハイライト

ハイライト **4** 同志社国際中学校・高等学校

## WSC(ワールド・スカルーズ・カップ)での快挙

WSCは世界中の中学生・高校生が総合的な教養を競う世界規模の大会です。使用言語は英語です。本校からは24人が関西大会に出場し、そのうち21人が6月にハノイで行われた世界大会に出場しました。

そしてさらに、世界大会で上位となった本校のチームが11月にアメリカのイエール大学で行われたチャンピオン

大会に出場し、そこでも優秀な成績を収めました。常に英語で勉強している世界の高校生の中での快挙です。



ハイライト **5** 同志社小学校

## 3年連続! 大文字駅伝本選出場

2018年2月11日に第32回京都市小学校大文字駅伝大会が開催され、同志社小学校を初め、地域の予選を勝ち抜いた48校が出場しました。

連続出場3回目となる今回は、12人の仲間がタスキをつないで8区間12.385kmを駆け抜け、25位でゴールイン。仲間同士、切磋琢磨しながら練習を積み重ね、最後の

最後まで諦めずに努力することの大切さを学びました。

たくさんの人と共に走る経験は、子どもたちにとって今後の大きな糧になるに違いありません。



ハイライト **6** 同志社国際学院

## 初等部6年生によるPYP Exhibitionの発表

2018年1月30～31日、初等部6年生がPYP教育の集大成となるExhibitionの発表を行いました。発表の出来栄に留まらず、発表までの過程全体を重視して、身に着けたすべてのIB Learner Profile(学習者像)、key conceptやskillを駆使します。自らの発問によって、課題の本質を抽象概念として理解・抽出し、さらに行動に移した上で誰もが分かるように提示・発表します。

これまで Exhibition の発表の見学者は保護者や下級生の児童が主でしたが、今年はオープンスクールとして学外からも参観いただき、探究型学習、バイリンガル教育の成果に高評価が寄せられました。



ハイライト **7** 同志社幼稚園

## 創立120周年記念式・祝会を開催

同志社幼稚園は、2017年6月24日に創立120周年を迎え、寒梅館ハーディーホールにて「同志社幼稚園創立120周年記念式・祝会」を執り行いました。記念式では、ご来賓をはじめ、卒園生、在園生とその保護者、後援会会員、協賛の方々が一堂に会し、厳粛な中にもアットホームな式となりました。

祝会では、開園当時の園舎・園児をしるしたスライド「120年のあゆみ」を皆で鑑賞したほか、本年を記念して

制作した「120周年記念愛唱歌」を会場が一つになって合唱しました。本園は2020年に向けて、移転新築プロジェクトを進めています。今後も良き伝統を引き継ぎながら、一人ひとりの個性を大切に、歩を進めていきます。



# 法人の取り組み

## 1 良心教育に関するシンポジウムを開催

2018年1月13日、良心館において良心教育に関するシンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、同志社が建学理念に掲げる「良心」の在り方を提起し、広く社会に発信するために、2013年度から毎年行っているものです。

第5回目となる今回は“福祉”“地域共生社会”をキーワードとして、潮谷義子スペシャルオリンピックス日本・熊本理事長(前熊本県知事)から「キリスト教主義的教育の今日的意義や役割」と題した基調講演がなされたほか、第2部では上野谷加代子同志社大学社会学部教授をコーディネーターに迎え、「良心教育と地域共生社会の構築」について活発なパネルディスカッションが行われました。「教育」と「実践」に取り組んできたパネリストらのお話は大変興味深く、活発な意見交換や質問が行われました。

動画 [http://www.doshisha.ed.jp/information/info\\_20180124.html](http://www.doshisha.ed.jp/information/info_20180124.html)



ハイライト

法人の取り組み

特集

## 2 医療法人社団石鎚会と包括協定を締結

学校法人同志社は、医療法人社団石鎚会(京田辺市)と連携に関する包括協定を締結し、2017年12月18日に今出川キャンパスにおいて締結式を行いました。

これまで両者の間では、同志社女子大学薬学部や看護学部等の実習生の受け入れ(同志社女子大学と2013年締結の学術交流等に関する包括協定)や、同志社大学における寄付講座の提供・講義科目の担当、また同志社国際中学校・高等学校における校医の派遣など、様々な連携の実績を積んできました。



今回の包括協定の締結により、教育・研究、医療等の交流をさらに推し進め、医療法人と学校法人との新しい連携モデルを示すことで、医療技術の一層の発展と地域社会の活性化を目指していきます。

## 3 グローバル社会に貢献できる人物を養成

立石信雄氏(社友、元オムロン株式会社代表取締役会長)によるご寄付とご支援により、国際感覚豊かでグローバル社会に貢献できる人物の養成を目的とした各種プログラムを実施しています。

2017年9月に開催された「第4回同志社 英語プレゼンテーション大会 -立石杯-」では、幼稚園児による発表と小学生の部4チーム、中学生の部9チーム、高校生の部8チームが出場し、自分たちの考えを英語でプレゼンテーションするという難しい課題に対して、工夫を凝らした発表が行われ、今後の児童・生徒の英語能力の向上と発展的な学習につながる大会となりました。また2018年2月に開催された「第7回同志社 英語大会 -立石杯- Recitation & Speech Contest」では、学内選考を通過した小学生から高校生まで計34名が出場し、白熱したRecitationとSpeechを繰り広げました。



## 4 東京新島講座を開催

2017年11月11日、第35回目となる東京新島講座を同志社大学東京サテライト・キャンパスにおいて開催し、延べ約115名の方々に参加いただきました。

第1部では、内藤正典同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授が「イスラームから世界を読み解く」をテーマに、中近東の紛争状況を始め、ムスリムの宗教、文化、生活など、新聞やテレビでは報道されないイスラーム世界の素顔を紹介しました。

続いて第2部では、小泉範子同志社大学生命医科学部教授が「同志社発の先端技術で眼科医療の未来を拓く」の演題で、ES細胞及びiPS細胞の特徴、また角膜移植でしか治療できない重症の角膜疾患に対して、近未来の治療をパッケージで開発している研究成果について紹介されました。気鋭の2名の教授による熱意ある、時折笑いも交えた講演に、会場は終始熱気にあふれていました。



## 5 肖像画除幕式

2017年4月4日、同志社礼拝堂において総長の就退任式を執り行いました。八田英二総長は挨拶で、「同志社一貫教育の強みを活かし、自らが動くことで、教育・研究・スポーツ等様々な分野でフロントラインに立つ」と決意を示しました。

これに伴い、2017年9月22日に新島記念講堂において、大谷實第17代総長の肖像画除幕式を執り行いました。大谷前総長のこれまでの功績について報告があった後、肖像画が披露され、記念写真撮影など和やかな雰囲気の中で歓談がなされました。



### 【自然災害に対する緊急措置】大雨や台風の被災者を対象に学費等減免

2017年度も大雨や台風など、大きな自然災害等が起きました。

同志社大学は次の2017年度の大規模自然災害等について、

被災受験生を対象に入学検定料全額免除措置及び在学生を対象に学費減免措置を実施しました。

同志社女子大学も同様の措置を実施しました。

「7月5日からの大雨による被害に伴う入学検定料及び学費減免の実施」

【福岡県】 朝倉市、朝倉郡東峰村、田川郡添田町

【大分県】 日田市、中津市

「台風第18号の被害に伴う入学検定料及び学費減免の実施」

【大分県】 佐伯市、津久見市

「7月22日からの大雨による被害に伴う入学検定料及び学費減免の実施」

【秋田県】 大仙市

「台風第21号の被害に伴う入学検定料及び学費減免の実施」

【和歌山県】 新宮市

【三重県】 伊勢市、度会郡玉城町

【京都府】 舞鶴市



# コンプライアンス機能の強化とガバナンス改革に向けた取り組み

学校法人同志社では、一昨年の廃棄物の処理及び清掃に関する法律違反に関して、再発防止と社会からの信頼回復に向け、コンプライアンス推進委員会の設置や監事監査・内部監査の強化など、コンプライアンス機能の強化及びチェック体制の整備等について基本方針を定め、取り組みを進めてきました。

2017年度は、これまでの取り組みに加えて、下記のとおりコンプライアンスの徹底とそれを貫徹するガバナンス強化に向けて新たな取り組みに着手しています。

## ▶ コンプライアンス機能の強化

### Ⅱ 法務室の設置

学校法人同志社内の各学校において、法律相談や訴訟対応で法律の専門家の力が必要となるケースは年々増加する傾向にあります。そこで、各学校との連携を強化し、法人全体の法的リスクを一元的に掌握し、問題を未然に防止することを目的として、2017年11月1日、法人部に法務室を設置しました。

定期的に駐在する弁護士及び職員が、契約書など法的文書の点検・助言を行うほか、規程等の制定・改廃の点検、訴訟その他紛争に関する対応の支援、知的財産(商標、著作権)の管理など、主として本法人の法務全般に関する業務に当たっています。

### Ⅱ コンプライアンス推進室の設置

法人内各学校におけるコンプライアンス意識の浸透や不正行為の未然防止を図るために、2017年11月1日、法人部にコンプライアンス推進室を設置しました。

具体的には、コンプライアンス推進に向けた諸施策の立案やコンプライアンス違反についての調査、コンプライアンスに関わる種々の研修等の企画・実施などを担当しています。また、99名のコンプライアンス推進担当者を新たに選任し、各学校・部課単位に配置するなど、学校法人同志社内でコンプライアンスの浸透を徹底する体制を整えました。

## ▶ ガバナンス改革

### Ⅱ 理事会・担当理事会のあり方

ガバナンス改革の一環として、理事会及び担当理事会のあり方を見直し、理事による建設的な議論・意見交換が担保できるような体制づくりに取り組みました。理事長の補佐をする常務理事(学務理事及び財務理事)を2名から4名に増員し、理事長が学校法人を代表してその業務執行の最終的責任を果たせるよう、常務理事を通して理事長の統制が効くガバナンス体制としています。

また、理事長の機能を推進し、理事会の円滑な運営のために設置する担当理事会に関して必要な事項を定める「同志社担当理事会規程」、「学務理事及び財務理事の職務分掌等に

関する規程」を新たに制定し、法人の事業及び業務について迅速な意思決定と執行を行いました。

### Ⅱ 法人及び大学の事務組織の再編

法人の管理運営業務(総務・財務・施設関係業務)について、従来は大学の総務部・財務部・施設部の3部長が法人部部長を兼任し、理事長と直接やりとりする体制でしたが、責任の所在が曖昧という課題がありました。

今回、大学の部長による法人部部長の兼任体制を解消し、当該常務理事の指揮監督のもと、大学の総務部・財務部・施設部の各部課が法人業務を執行する体制とすることで、限られた業務組織の中で法人業務と大学業務を峻別し、負うべき責任を明確にし、内部チェック体制の強化や連絡機能の点検・整備につなげています。

## ▶ チェック体制の整備

### Ⅱ 監事監査の強化

2017年1月1日付で、3名の監事のうち1名を常勤の監事として選任し、理事会や評議員会のほか、担当理事会などへも出席して執務に当たっています。

また、理事長の決裁を受ける起案書や契約書等の文書の事前点検や、各学校の重要な会議録の閲覧等により、学校法人及び各学校における事業計画の決定と実施状況を恒常的に監視しています。

### Ⅱ 内部監査の強化

内部監査の強化については、当初、監査業務を経験したことがある特定業務職員を新たに配置したほか、従来の専任職員1名から専任職員2名へと人員を増やし、内部監査の計画策定・実施や監事監査の円滑化などに取り組んでいます。

内部監査規程に業務監査が規定されたことを受け、これまでの会計監査中心の計画に新たに業務監査を加え、2017年度における委託業務の契約書チェックと廃棄物処理に関する状況等について、法人内各学校を対象として監査を実施しました。

### Ⅱ 株式会社同志社エンタープライズに対する調査

学校法人同志社が100%出資する事業会社である株式会社同志社エンタープライズに対して、監事は監事監査規程の定めに従い、ヒアリング調査及び実地調査を行い、その業務と財産の状況について確認し統制を図っています。

以上のように、学校法人同志社と法人内の各学校が一丸となって、社会からの信頼回復に努めてまいりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

# 特集2 グラフで見る同志社

※2011年度から国際学院のデータを含んでいます。

図1 学生・生徒・児童・園児数

各年度5月1日現在



学生数は、近年、43,000人規模で安定した状況になっています。

図2 志願者数

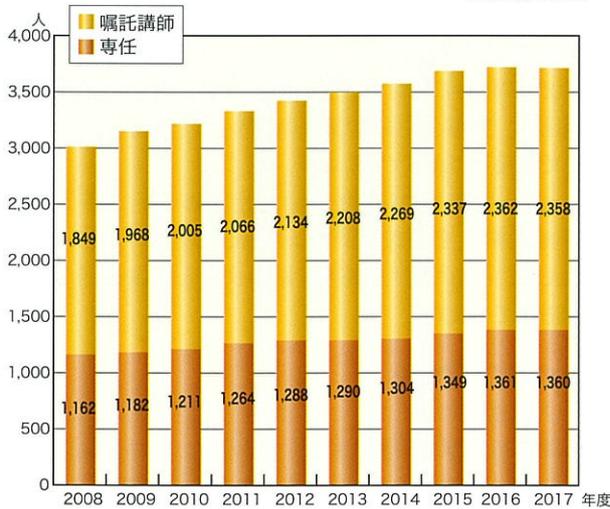
各年度春学期および前年度秋学期入試の志願者数。大学、女子大学は大学院と学部の合計



2017年度の志願者数は、大学が前年度から6,000名程度増加し、全体で約80,000人となりました。これは、過去10年において最も高い志願者数です。

図3 教員数

各年度5月1日現在



教員数は、研究体制の整備など教学改革の進行に伴って、専任、嘱託講師とも漸増してきましたが、近年は3,700名規模で推移しています。職員数は、数年来約800名で推移しています。

図4 職員数

各年度5月1日現在

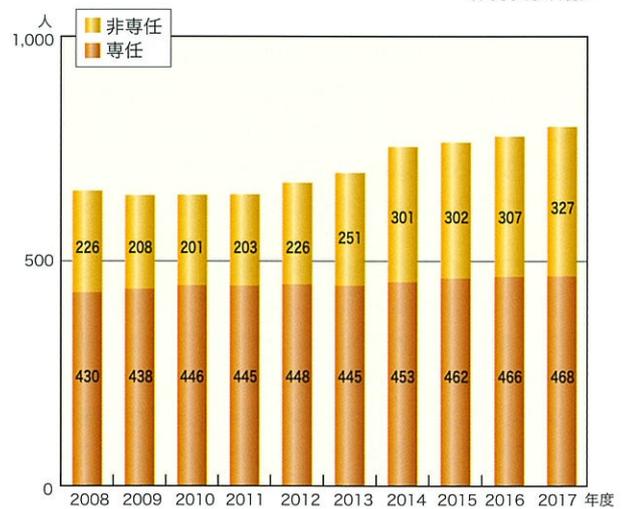


図5 専任教員数

各年度5月1日現在



専任教員数は漸増し、近年は1,300名規模で安定しています。内訳は、大学が最も多く約60%、女子大学が約15%と続き、残りを両大学以外の諸学校で占めています。

図6 専任教員1人当たりの学生・生徒・児童・園児数

各年度5月1日現在

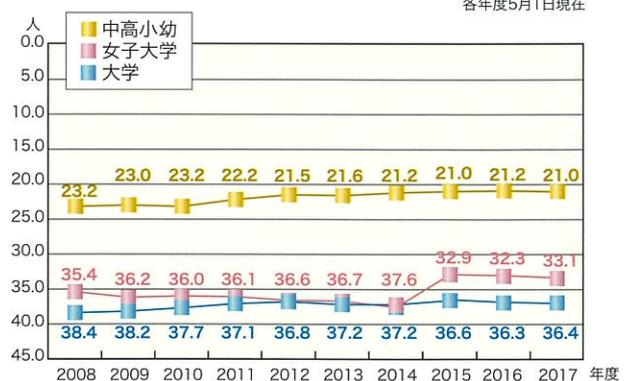


図1の学生生徒数を図5の専任教員数で割ったのがこのグラフで、数値が小さいほど教育研究条件の充実度が高いと考えられます。近年は各校ともほぼ同じ水準を保っています。女子大学は、看護学部の設置により、2015年度から専任教員一人当たりの学生数が減少しています。

図7 留学生数

各年度5月1日現在。ただし、2012年度から送り出しは年度内に出国した人数



大学における文部科学省の「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30)」の採択(2009年度)等により、留学生の受け入れは増加を続けています。送り出しについても、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業(Go Global Japan)全学推進型」の採択(2012年度)以来、着実に増加しており、前年度同様、900名を超える学生を送り出しています。

図8 留学生地域別状況

受け入れは5月1日現在。送り出しは年度内に出国した人数

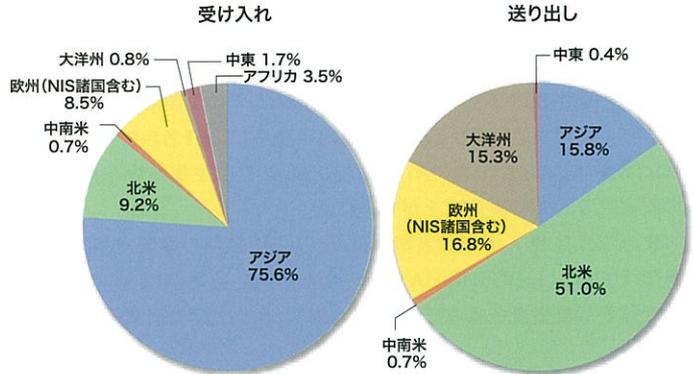


図9 学内奨学金

\*大学奨学金の入学前募集については、2011年度までは給付決定数、2012年度より辞退者を除く支給実績で集計



給付・貸与総額は10億円を突破しています。なお、2017年度の総額は、同年度からの同志社大学貸与奨学金の新規募集停止等により前年度より減少しています。今後は、大学において、第3号基本金の統合による運用収入増、「同志社大学2025 ALL DOSHISHA募金」の推進、書籍等を用いた寄付金(いわゆる古本募金)の活用による給付奨学金により学生生徒の勉学を支えてまいります。

図10 就職率(内定率)



就職率(内定率)とは就職希望者数に対する就職決定者数の比率です。景気変動により、年によって若干の低下がみられるものの、安定的に高い水準を維持しています。

図11 科学研究費補助金

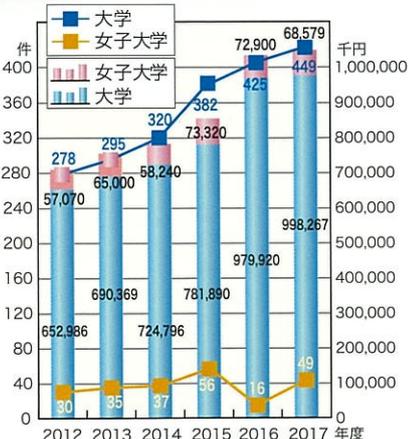


図12 受託研究費

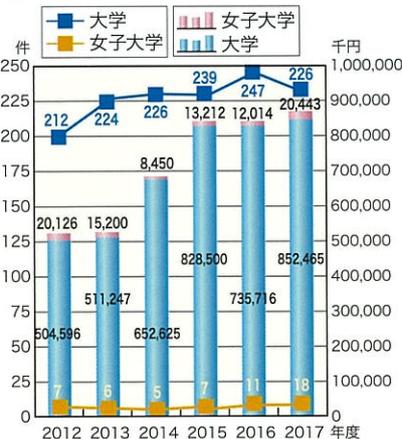
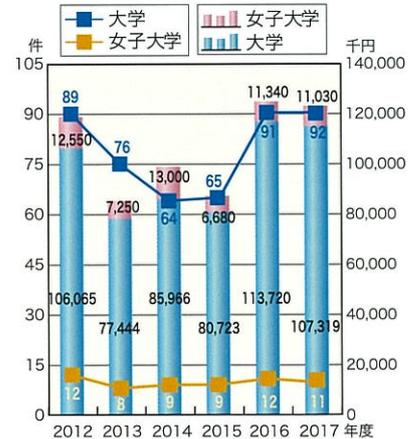


図13 奨学寄付金(研究助成)



折れ線は各研究費の採択・受入れ件数、棒グラフは金額を表しています。研究支援の充実、産官学連携の推進を図っており、研究費に対する外部資金の導入は順調に進んでいます。

# 財務の概要

## 概況

2017年度は、大学では「同志社大学ビジョン2025」、女子大学では「Vision150」に掲げる具体的施策の実行を進め、法人としても2025年に創立150周年を迎えるための準備を開始いたしました。

法人内諸学校の学生・生徒・児童・園児数は、この間開設した学部等の年次進行や定員増などにより、2016年度の43,361名から本年度は58名増加の43,419名(各5月1日現在)となり、学生生徒等納付金の安定的収入を確保することができました。

また、安定した入学志願者数の確保による手数料の増収、同志社大学 2025 ALL DOSHISHA募金や香里中学校・高等学校への教育研究施設等整備資金宛の寄付金による増収、私立大学等経常費補助

金などの補助金の増収、受託事業収入などによる付随事業・収益事業収入の増収などにより、事業活動収入総額は予算を大幅に上回る額を確保することができました。

支出では、経常的な事業支出は経費の節減や執行残などにより減少しました。また、施設設備整備事業では、女子大学の今出川および京田辺におけるキャンパス整備事業をはじめ、大学の図書館および寮の改修工事、香里中学校・高等学校の礼拝堂や体育館の改修工事などを予算の範囲内で実施しました。

以下、学校法人会計基準に基づく計算書を中心にして、本年度の大学の財政状況を説明します。

(文中、表の金額は、説明のため百万円未満を四捨五入等調整し、百万円単位で表しています)

## 資金収支計算書

2017年度法人総合資金収支計算書は表1のとおりです。

[( )内は予算比: +は増加、△は減少]

### (1) 収入の部

#### 学生生徒等納付金収入

**485億400万円(+1億1,000万円)**

予算積算時の収納見込額からの差異により、主に大学で1億400万円、女子大学で1,800万円の増収、中高で400万円、女子中学校・高等学校で400万円の減収です。

#### 手数料収入

**25億100万円(+3億5,000万円)**

入学検定料は、予算計上数に対する入学志願者数の増加により、主に大学で3億3,900万円、香里中学校・高等学校で700万円の増収です。

#### 寄付金収入

**8億9,400万円(+4億5,300万円)**

民間企業等、在学生の保護者、卒業生、父母の会、校友会等からの寄付の他、研究助成あての奨学金寄付、同志社大学2025 ALL DOSHISHA募金宛の寄付等により、大学で予算に対して1億600万円、女子大学で3,100万円、香里中学校・高等学校で3億400万円の増収となりました。

#### 補助金収入

**53億1,600万円(+8億1,600万円)**

国庫補助金は、日本私立学校振興・共済事業団から大学、女子大学への私立大学等経常費補助金の他、文部科学省から大学および香里中学校・高等学校への私立学校施設整備費補助金、文部科学省から大学への研究拠点形成費等補助金などで、予算に対して8億1,600万円増収の34億7,100万円となりました。

地方公共団体補助金は、京都府や大阪府等から各中学校・高等学校、小学校、国際学院、幼稚園への私学運営費補助金、授業料軽減補助金などで、ほぼ予算どおりの18億4,300万円となりました。

#### 資産売却収入

**2,100万円(予算どおり)**

同志社びわこリトリートセンター土地一部売却に伴う収入を計上しています。

#### 付随事業・収益事業収入

**13億4,800万円(+2億500万円)**

企業等からの受託研究による収入、寮費や小学校給食費、国際学院スクールバスでの収入、知財のロイヤリティなどを計上しています。大学の補助活動収入で5,500万円、受託事業収入で1億3,000万円の増収です。

表1 2017(平成29)年度 法人総合資金収支計算書

(単位:百万円)

科目	支出の部			科目	収入の部		
	予算	決算	差異		予算	決算	差異
人件費支出	32,403	32,222	181	学生生徒等納付金収入	48,394	48,504	△ 110
教育研究経費支出	16,916	16,017	899	手数料収入	2,151	2,501	△ 350
管理経費支出	2,550	2,668	△ 118	寄付金収入	441	894	△ 453
借入金等利息支出	3	3	0	補助金収入	4,500	5,316	△ 816
借入金等返済支出	91	91	0	資産売却収入	21	21	0
施設関係支出	5,585	4,784	801	付随事業・収益事業収入	1,143	1,348	△ 205
設備関係支出	2,256	1,990	266	受取利息・配当金収入	403	445	△ 42
資産運用支出	3,050	21,964	△ 18,914	雑収入	1,512	1,747	△ 235
その他の支出	2,286	2,488	△ 202	前受金収入	9,871	9,942	△ 71
予備費	120	0	120	その他の収入	4,549	23,577	△ 19,028
資金支出調整勘定	△ 2,230	△ 1,766	△ 464	資金収入調整勘定	△ 10,853	△ 11,185	332
翌年度繰越支払資金	25,324	28,871	△ 3,547	前年度繰越支払資金	26,222	26,222	0
<b>支出の部合計</b>	<b>88,354</b>	<b>109,332</b>	<b>△ 20,978</b>	<b>収入の部合計</b>	<b>88,354</b>	<b>109,332</b>	<b>△ 20,978</b>

## 受取利息・配当金収入

## 4億4,500万円(+4,200万円)

第2号基本金、第3号基本金、退職給与、減価償却の引当特定資産運用収入およびその他の受取利息・配当金は、運用実績により増収となりました。

## 雑収入

## 17億4,700万円(+2億3,500万円)

施設設備利用料収入は宿舍費等により7,300万円の増収、その他雑収入はカウピング銀行債の転換社債弁済額等により7,300万円の増収となりました。

## その他の収入

## 235億7,700万円(+190億2,800万円)

第2号基本金引当特定資産取崩収入は女子大学のキャンパス整備事業への充当、第3号基本金、退職給与、減価償却の引当特定資産取崩収入は満期を迎えた有価証券の償還などによるものです。

## (2) 支出の部

## 人件費支出

## 322億2,200万円(△1億8,100万円)

教員人件費は219億7,300万円で、大学での退職者増に伴う退職期末手当の増等により300万円の増加、職員人件費は82億7,700万円で、大学でのアルバイト等兼務職員人件費の執行残等により2億4,600万円の減少となりました。退職金支出は19億5,600万円で、依願退職者の見込み額からの増により、6,000万円増加しました。

なお、前年度に比べると、教員人件費は1億1,300万円の増加、職員人件費は3,400万円の増加となっています。

## 教育研究経費支出

## 160億1,700万円(△8億9,900万円)

大学での学部研究科等教育研究費および施設設備維持管理費用の執行残等により、主に消耗品費、光熱水費、旅費交通費が節減され、総額では予算内に収まりました。

なお、前年度は164億3,900万円で、修繕費等の支出減により、4億

2,200万円の減少となっています。

## 管理経費支出

## 26億6,800万円(+1億1,800万円)

修繕費等の増加により、予算を上回る執行となりました。

なお、前年度は25億5,700万円で、修繕費等の支出増により、1億1,100万円の増となっています。

## 借入金等利息支出

## 300万円(予算どおり)

過年度に建設した校舎等の建築資金に対する日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の利息支払額です。

## 借入金等返済支出

## 9,100万円(予算どおり)

上記借入金の約定返済額です。

## 施設関係支出・設備関係支出

## 計67億7,400万円(△10億6,700万円)

建物、構築物、機器備品、図書、ソフトウェアなどの固定資産取得による支出です。なお、固定資産への計上が必要とされるリース取引にかかるリース料総額を含んでいます。

本年度の主な施設設備整備事業は以下のとおりです(金額には教育研究経費および管理経費を含む)。

## ■大学

ラーネッド記念図書館改修工事 9億4,300万円

松蔭寮改修工事 4億4,200万円

## ■女子大学

今出川キャンパス整備事業 27億7,200万円

京田辺キャンパス整備事業 14億5,600万円

## ■香里中学校・高等学校

香真館改修工事 1億1,100万円

第二体育館改修工事 6,300万円

## 資産運用支出

## 219億6,400万円(+189億1,400万円)

有価証券の満期償還に伴う各引当特定資産などの買い替えおよび本年度に増額した各引当特定資産への繰り入れによる支出です。

## 資産運用のリスクに対応するために

学校法人の資産は教育研究活動を安定的・継続的に支えるための大切な財産であり、資産の運用に際しては、安全性が強く求められます。そのため、学校法人同志社では、資産運用の対象や基準を定めるとともに、資金運用委員会を設け、運用計画の立案、運用状況の管理、運用結果の点検などを行い、その内容を適宜理事会に報告しています。

特に2007年夏以降、米国のサブプライムローン問題を契機に始まった世界的な金融危機により、運用資産(債券)の時価が下落するなど運用リスクが高まったため、「有価証券の評価換え」ならびに「運用債券の損失時の対応」に関する取り扱いを定め、適切な運用管理に努めています。

表2 2017(平成29)年度 法人総合活動区分資金収支計算書

(単位:百万円)

科目		金額	科目		金額	科目		金額
教育活動による資金収支	収入		施設整備等活動による資金収支	収入		その他の活動による資金収支	収入	
	学生生徒等納付金収入	48,504		施設設備寄付金収入	419		第3号基本金引当特定資産取崩収入	2,800
	手数料収入	2,501		施設設備補助金収入	212		退職給与引当特定資産取崩収入	2,100
	特別寄付金収入	440		施設設備売却収入	21		受取利息・配当金収入	445
	一般寄付金収入	35		第2号基本金引当特定資産取崩収入	2,960		その他の収入	671
	経常費等補助金収入	5,103		減価償却引当特定資産取崩収入	14,199		その他の活動資金収入計	6,016
	付随事業収入	1,348		施設整備等活動資金収入計	17,811		借入金等返済支出	91
	雑収入	1,730		施設関係支出	4,783		第3号基本金引当特定資産繰入支出	2,822
	教育活動資金収入計	59,661		設備関係支出	1,990		退職給与引当特定資産繰入支出	1,893
	支出			第2号基本金引当特定資産繰入支出	1,050		借入金等利息支出	3
人件費支出	32,222	減価償却引当特定資産繰入支出	16,199	その他の支出	230			
教育研究経費支出	16,017	施設整備等活動資金支出計	24,022	その他の活動資金支出計	5,039			
管理経費支出	2,641			差引	977			
教育活動資金支出計	50,880			調整勘定等	0			
差引	8,781			その他の活動資金収支差額(C)	977			
調整勘定等	△ 785	差引	△ 6,211	小計+(C)	2,649			
教育活動資金収支差額(A)	7,996	調整勘定等	△ 113	前年度繰越支払資金	26,222			
		施設整備等活動資金収支差額(B)	△ 6,324	翌年度繰越支払資金	28,871			
		小計 (A)+(B)	1,672					

## 事業活動収支計算書

2017年度法人総合事業活動収支計算書は表3のとおりです。

〔( )内は予算比: +は増加、△は減少〕

### (1) 事業活動収入計

609億7,600万円(+24億1,200万円)

手数料、寄付金、補助金等の増収により、予算比4.1%の増加となりました。前年度と比べると、15億円、2.5%増となっています。

### (2) 基本金組入額合計

17億6,000万円(△11億8,800万円)

第1号基本金組入額

6億4,000万円(△12億5,800万円)

当年度の固定資産増加額は施設および設備関係支出、現物寄付で69億2,400万円、過年度事業にかかわる借入金等返済支出は9,100万円となり、一方で施設や設備の更新による当期除却高は37億4,600万円、過年度に組入れた第2号基本金からの振替額は29億6,000万円となっています。

第2号基本金組入額

10億5,000万円(予算どおり)

将来に教学施設設備などを取得するため、計画に基づいて資金の組入を行いました。

第3号基本金組入額

7,000万円(+7,000万円)

大学における奨学事業宛寄付金等の組入です。

第4号基本金組入額

0円(予算どおり)

### (3) 事業活動支出計

574億2,100万円(△9億3,900万円)

人件費および教育研究経費における予算執行残や節減などにより、予算内に収まりました。事業活動支出は予算に対して1.6%の減少となり、前年度に比べると5億2,600万円、0.9%増となっています。

### (4) 当年度収支差額

17億9,500万円

予算では支出超過としていたところ、事業活動収入が大幅に増収となり、事業活動支出と基本金組入が減少したことから、予算に対して45億3,900万円改善し、収入超過となりました。

翌年度繰越収支差額

△296億5,200万円

### 収支の推移

図3は収支の均衡状態の推移を示したものです。

事業活動収入の多くを占める学生生徒等納付金はなだらかに増加していますが、それ以外の各収入の影響により、近年収入全体としては横ばいとなっています。一方、支出では大規模な建設事業を行った年度で基本金組入額が増加しています。

図4、5は事業活動収入と事業活動支出の主な科目の伸び率です。

事業活動収入では、学生生徒等納付金はなだらかな上昇カーブを描いています。手数料も、安定した入学志願者を確保しています。付随事業収入の伸びは、受託研究事業など産官学連携の進展によります。

事業活動支出では、教育研究活動の活性化を反映して教育研究経費が伸び、計画的な教員増員により人件費も増加しています。

表3 2017(平成29)年度 法人総合事業活動収支計算書

(単位:百万円)

科目		予算	決算	差異	科目		予算	決算	差異		
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	48,394	48,504	△ 110	特別収支	収入の部	資産売却差額	20	20	0
		手数料	2,151	2,501	△ 350			その他の特別収入	195	847	△ 652
		寄付金	326	475	△ 149			うち 施設設備寄付金・現物寄付	115	618	△ 503
		経常費等補助金	4,420	5,103	△ 683			うち 施設設備補助金	80	212	△ 132
		付随事業収入	1,143	1,348	△ 205			特別収入計	215	867	△ 652
	雑収入	1,512	1,733	△ 221	支出の部		資産処分差額	180	302	△ 122	
	教育活動収入計	57,946	59,664	△ 1,718			その他の特別支出	3	27	△ 24	
	支出の部	人件費	32,169	32,014			155	特別支出計	183	329	△ 146
		教育研究経費	23,028	22,124			904	特別収支差額	32	538	△ 506
		うち 減価償却額	6,112	6,108			4	予備費	120	0	120
管理経費		2,813	2,908	△ 95	基本金組入前当年度収支差額	204	3,555	△ 3,351			
うち 減価償却額		266	267	△ 1	基本金組入額合計	△ 2,948	△ 1,760	△ 1,188			
徴収不能額等	44	43	1	第1号基本金組入額	△ 1,898	△ 640	△ 1,258				
教育活動支出計	58,054	57,089	965	第2号基本金組入額	△ 1,050	△ 1,050	0				
教育活動収支差額	△ 108	2,575	△ 2,683	第3号基本金組入額	0	△ 70	70				
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	403	445	△ 42	第4号基本金組入額	0	0	0		
		その他の教育活動外収入	0	0	0	当年度収支差額	△ 2,744	1,795	△ 4,539		
		教育活動外収入計	403	445	△ 42	前年度繰越収支差額	△ 31,465	△ 31,465	0		
	支出の部	借入金利息	3	3	0	基本金取崩額	22	18	4		
		その他の教育活動外支出	0	0	0	翌年度繰越収支差額	△ 34,187	△ 29,652	△ 4,535		
		教育活動外支出計	3	3	0	(参考)					
		教育活動外収支差額	400	442	△ 42	事業活動収入計	58,564	60,976	△ 2,412		
経常収支差額	292	3,017	△ 2,725	事業活動支出計	58,360	57,421	939				

図1 事業活動収入の構成比

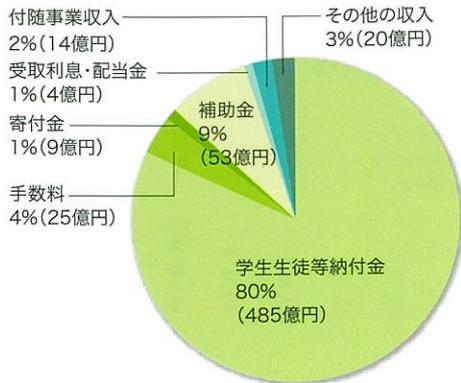


図2 事業活動支出+基本金組入額の構成比

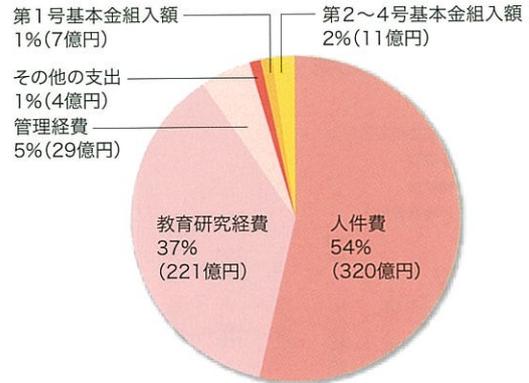
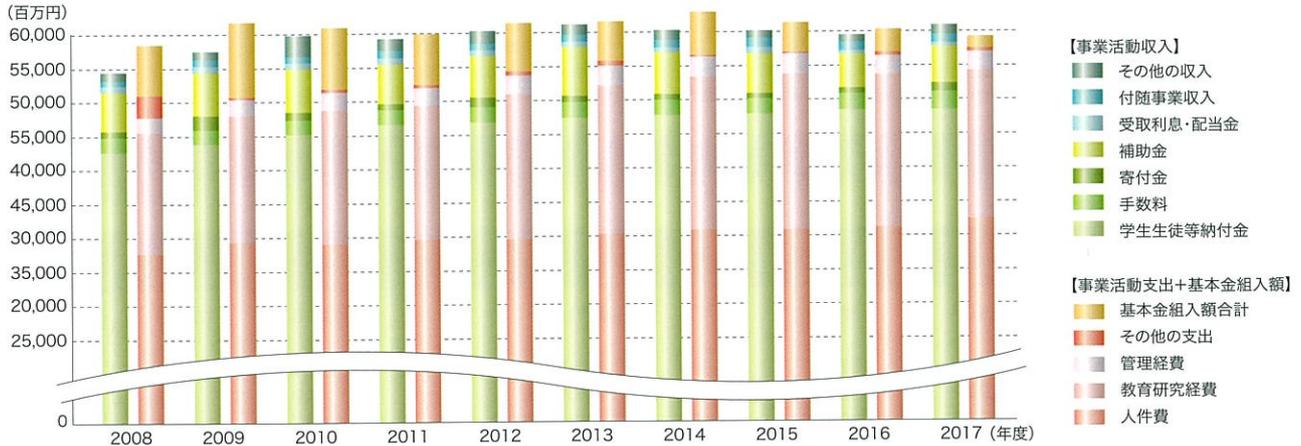


図3 収支の推移



※2015年度からの学校法人会計基準の一部改正に伴い、2014年度以前については次のとおり基準改正後の科目に組み替えて表示しています。  
2014年度以前の帰属収入＝事業活動収入、資産運用収入(施設設備利用料を除く)＝受取利息・配当金、事業収入＝付随事業収入、消費支出＝事業活動支出

### 学校会計の用語解説

国または、地方公共団体から経常費補助金の交付を受ける学校法人は、私立学校振興助成法の定めにより学校法人会計基準に従って、会計処理を行い、計算書類を作成しなければなりません。計算書類は、主要なものとして資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表の3種類があります。この3種類に加えて、付属の表として活動区分資金収支計算書を掲載しています。

#### 資金収支計算書

当該年度の支払資金の期末、すなわち学校法人の1年間の諸活動に伴うお金の動きを網羅したものです。

#### 活動区分資金収支計算書

資金収支計算書を3つの活動区分(教育活動、施設整備等活動、その他の活動)ごとの収支に組み替えて、各々の活動の資金の流れを表したものです。教育活動による資金収支は、キャッシュベースによる本業の教育研究活動の収支状況です。施設整備等活動による資金収支は、当年度の施設設備の整備にかかる支出とその財源を表しています。その他の活動による資金収支は、借入金や資金運用などの財務活動です。

#### 事業活動収支計算書

当該年度の経常的な事業活動(教育活動収支、教育活動外収支)と臨時的な事業活動(特別収支)に区分して、それぞれの経営状況および収支の均衡状態を表したものです。

教育活動収支は、学校本来の経常的な教育研究活動にかかる収入および支出です。教育活動外収支は、経常的な財務活動および収益事業の活動にかかる収入および支出です。特別収支は、施設設備の整備などにかかる臨時的な収入および支出です。

#### 貸借対照表

一定時点(3月末現在)の財産の状態を明らかにするものです。

それぞれの計算書類で使用用語とその意味は次のとおりです。

#### 教育研究経費と管理経費

物件費は、直接教育研究に要するものとそれ以外の経費に分類します。前者を教育研究経費、後者を管理経費といいます。管理経費に該当するものは、役員の業務遂行、総務・人事・財務・経理その他法人業務、教職員の福利厚生、学生募集、食堂や売店、

学寮(全寮制を除く)に要する経費などです。

#### 事業活動収入

事業活動収支計算書の教育活動収支・教育活動外収支・特別収支の収入の部を合計したものです。当該年度のうち、学校法人の負債とならない収入をいいます。したがって借入金、前受金、預り金などは含まれません。

#### 事業活動支出

事業活動収支計算書の教育活動収支・教育活動外収支・特別収支の支出の部と予備費を合計したものです。人件費、物件費、減価償却額、借入金利息など当該年度に消費する支出です。

#### 基本金組入額

基本金とは、学校法人がその諸活動の計画に基づいて継続的に維持すべき資産で、以下の第1号から第4号に該当するものです。これは事業活動収入と事業活動支出の差額(＝基本金組入前当年度収支差額)の中から充当します。これを基本金の組入(くみいれ)といいます。

第1号基本金は自己資金による土地、建物、設備などの固定資産の取得額、第2号基本金は将来の固定資産取得に備えた資金の先行組入額、第3号基本金は基金の積立額、第4号基本金は恒常的に保持すべきものとされる1ヶ月分の運転資金相当額です。

#### 当年度収支差額

事業活動収入と事業活動支出の差額(＝基本金組入前当年度収支差額)から基本金組入額を控除した額で、当年度の財政の均衡状態を表します。これがマイナスであると、支出超過いわゆる赤字で、収支が均衡せず資金不足となっていることを示します。

#### 学校会計と企業会計

企業会計の計算書類の主な目的は経営成績を明らかにして利益を測定することですが、学校会計の計算書類では収支の対照を明示して財政の均衡状態を表すことに主眼が置かれています。教育研究活動を事業目的とする学校法人は公益性が高い公益法人であり、その安定性、継続性が強く求められていることから、学校法人会計基準も長期にわたる収支の均衡を求める内容となっています。

図4 事業活動収入の伸び率

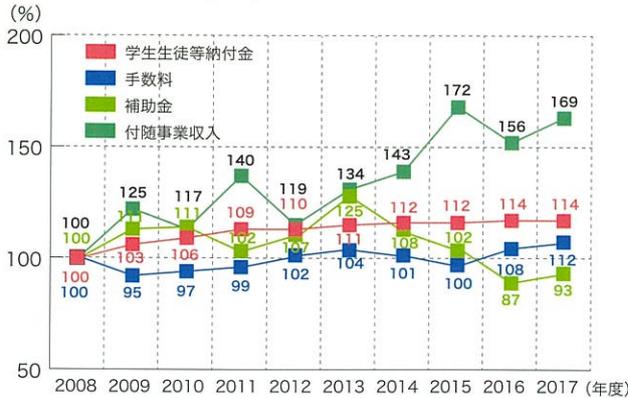
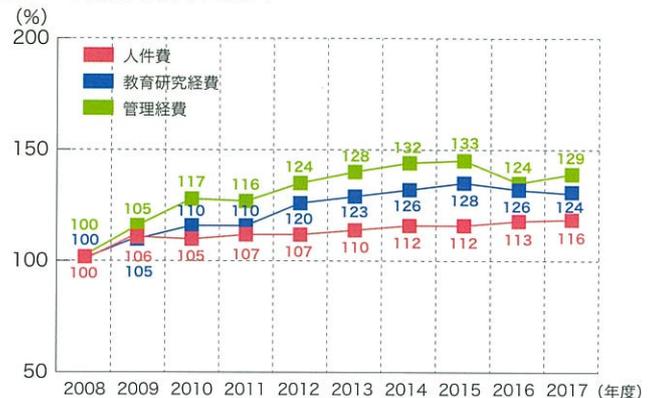


図5 事業活動支出の伸び率



※2015年度からの学校法人会計基準の一部改正に伴い、2014年度以前については次のとおり基準改正後の科目に組み替えて表示しています。  
2014年度以前の帰属収入＝事業活動収入、資産運用収入(施設設備利用料を除く)＝受取利息・配当金、事業収入＝付随事業収入、消費支出＝事業活動支出

## 貸借対照表

表4 法人総合貸借対照表

2018(平成30)年 3月31日現在  
(単位:百万円)

資産の部				負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
【固定資産】	222,507	222,646	△ 139	【固定負債】	14,916	15,229	△ 313
(有形固定資産)	137,846	137,481	365	長期借入金	11	89	△ 78
土地	18,752	18,753	△ 1	長期未払金	29	57	△ 28
建物	85,187	83,766	1,421	退職給与引当金	14,857	15,064	△ 207
構築物	4,419	4,508	△ 89	受入保証金	19	19	0
教育研究用機器備品	11,507	11,903	△ 396	【流動負債】	12,842	13,236	△ 394
管理用機器備品	187	135	52	短期借入金	78	91	△ 13
図書	17,698	17,491	207	未払金	1,316	1,913	△ 597
車両・舟艇・航空機	9	8	1	前受金	9,942	9,899	43
建設仮勘定	87	917	△ 830	預り金	1,291	1,131	160
(特定資産)	80,133	80,180	△ 47	修学旅行費預り金	205	193	12
第2号基本金引当特定資産	6,740	8,650	△ 1,910	仮受金	10	9	1
第3号基本金引当特定資産	19,536	19,466	70	負債の部合計	27,758	28,465	△ 707
退職給与引当特定資産	14,857	15,064	△ 207	純資産の部			
減価償却引当特定資産	39,000	37,000	2,000	科目	本年度末	前年度末	増減
(その他の固定資産)	4,528	4,985	△ 457	【基本金】	255,296	253,554	1,742
借地権	208	208	0	第1号基本金	224,910	221,328	3,582
電話加入権	20	20	0	第2号基本金	6,740	8,650	△ 1,910
施設利用権	19	19	0	第3号基本金	19,536	19,466	70
ソフトウェア	666	784	△ 118	第4号基本金	4,110	4,110	0
ソフトウェア仮勘定	0	0	0	【繰越収支差額】	△ 29,652	△ 31,465	1,813
有価証券	20	20	0	(翌年度繰越収支差額)	△ 29,652	△ 31,465	1,813
長期貸付金	3,524	3,863	△ 339	純資産の部合計	225,644	222,089	3,555
支払保証金	70	70	0	負債および純資産の部合計	253,402	250,554	2,848
出資金	1	1	0	減価償却額の累計額の合計額	87,277		
【流動資産】	30,895	27,908	2,987	基本金未組入額	251		
現金預金	28,871	26,222	2,649				
未収入金	1,258	873	385				
短期貸付金	0	0	0				
前払金	393	499	△ 106				
仮払金	168	121	47				
修学旅行費預り資産	205	193	12				
資産の部合計	253,402	250,554	2,848				

2017年度法人総合貸借対照表は表4のとおりです。図6は過去10年間の貸借対照表推移をグラフ化したものです。繰越収支差額は支出超過であるため、棒グラフの基本金の先端部分に網掛けで表現しており、この部分が資金不足額となります。

### (1) 資産の部

固定資産のうち有形固定資産は、教育研究活動の拠点となる土地、建物、構築物や機器備品の整備充実により増加してきました。2008年度は大学継志館の取得、女子大学純正館、中学校・高等学校桑志館、恵潤館の建設、2009年度は大学多々羅キャンパスの取得、中学校・高等学校立志館の建設、2010年度は、大学烏丸キャンパスの取得、国際学院抱志館、香里中学校・高等学校紫塩館の建設、2012年度は、大学良心館、志高館、香里中学校・高等学校尚志館、香友館の建設、2014年度は大学訪知館、言館、光館、2015年度は女子中学校・高等学校希望館の建設などによるものです。

特定資産は、第2号基本金の引当特定資産、第3号基本金の引当特定資産、減価償却の引当特定資産を増額しました。

この結果、本年度末の固定資産総額は前年度からは若干減少していますが、2,225億700万円となりました。

流動資産は、現金預金、未収入金などで、本年度末は前年度比10.7%増の3,089億5,000万円と大きく増加しました。

### (2) 負債・純資産の部

固定負債のうち長期借入金は、計画的な返済により着実に減少を続け、完済時期が近づいてまいりました。退職給与引当金は、期末要支給額の100%を引き当てています。

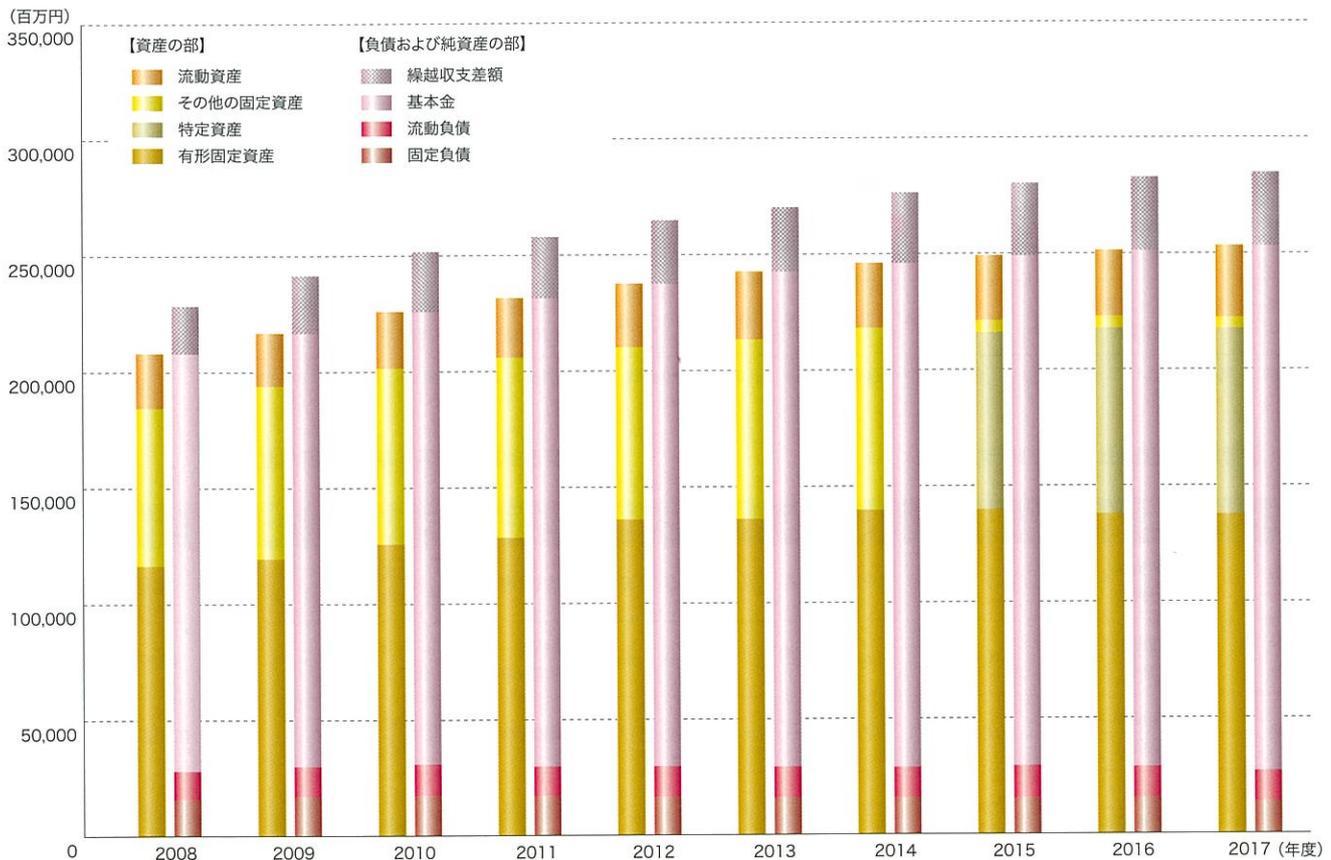
流動負債は新入生学費の前受金が大部分を占めています。

基本金は、第1号基本金が自己資金による固定資産の取得と借入金の返済などで前年度比0.7%増の2,552億9,600万円、第2号基本金は建設事業への充当が計画に基づく組入を大きく上回ったため、前年度からは減少し、67億4,000万円、第3号基本金は前年度比0.4%増の195億3,600万円、第4号基本金は前年度同額の41億1,000万円となっています。

収支差額は、事業活動収入が堅調に推移している一方で、この間大規模な建設事業を自己資金で賄っているため支出超過の状況ですが、本年度は収支が改善し、翌年度に繰越す支出超過額は296億5,200万円となりました。

また、減価償却額累計額は872億7,700万円となっています。

図6 貸借対照表の推移



※2015年度からの学校法人会計基準の一部改正に伴い、基準改正後の科目に組み替えて表示しています。2014年度以前の消費収支差額＝繰越収支差額、2015年度から、その他の固定資産については、その他の固定資産と特定資産に分けて表示しています。

## 財務比率

財務比率は、計算書の科目間の比率を算出して、経年変化の追跡や全国平均との比較を行い、財政状況の分析に利用するものです。表5、6は本学と全国平均の比較です。

収支計算書関係比率について本学の指標値を全国平均と比較すると、学生生徒等納付金比率は高く、補助金比率は低めで、学費への依存度が比較的高い収入構造となっています。経費に関する比率では、低い方がよいとされる人件費比率および管理経費比率は全国平均内にあります。また教育研究経費比率は教育研究の充実度を表し、高いほうが望ましいとされており、本学は全国平均を上回っています。

学校法人は収支差額の中から基本金組入額を賄うため、事業活動収支差額比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものとされています。本学では、この間事業活動支出の増加が事業活動収入の伸びを上回っており、比率も低下傾向に

ありましたが、2017年度は比率が上昇しました。

貸借対照表関係比率では、固定比率で土地、施設設備などの固定資産が自己資金で賄えているかどうかを見ます。負債比率や総負債比率は、自己資金に対する負債、すなわち他人資金の割合です。また、基本金比率は、基本金組入の対象となる資産に対して組入れ済みの基本金がどれだけあるかを示すものです。

流動比率は、各種引当特定資産の充実と資金運用の効率化を図り、240.6%となっています。また、新規建設事業は借入金に依存せず自己資金で行っており、基本金比率はほぼ100%に近い数値になっています。

教学組織の新設、施設設備の充実など絶え間なき教学改革を事業活動収入の範囲内で安定的に行うのは年々困難な状況となっていますが、自己資金の安定的確保、固定資産および基本金の充実、借入金等外部負債の減少の状況が指標値に表れています。

表5 消費収支計算書関係比率(2014年度以前)

(単位:%)

	算式(×100)	評価指標	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	—	78.3	76.2	75.5	78.6	77.6	77.5	79.2
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	↑	1.7	3.6	1.9	1.5	2.3	1.5	1.4
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	↑	10.5	11.0	10.6	9.9	10.1	11.7	10.2
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	↓	50.7	50.9	48.4	49.9	48.9	49.4	51.0
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	↑	32.8	32.5	32.9	33.3	35.4	35.8	37.4
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	↓	4.2	4.1	4.4	4.4	4.6	4.7	4.9
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	↑	6.4	11.9	13.4	11.5	10.0	8.8	6.3

評価指標: ↑高い値がよい ↓低い値がよい 全国平均:「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)による医歯系法人を除く2016年度数値

事業活動収支計算書関係比率(2015年度以降)

(単位:%)

	算式(×100)	評価指標	2015	2016	2017	全国平均
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{經常収入}}$	—	80.7	82.5	80.7	73.7
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	↑	1.2	1.0	1.8	3.0
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	↑	9.7	8.4	8.7	12.3
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{經常収入}}$	↓	51.9	53.0	53.3	53.6
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{經常収入}}$	↑	38.6	38.2	36.8	33.0
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{經常収入}}$	↓	5.1	4.8	4.8	9.0
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	↑	5.4	4.3	5.8	4.9

表6 貸借対照表関係比率(2014年度以前)

(単位:%)

	算式(×100)	評価指標	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	↓	102.7	104.1	103.7	102.3	101.4	100.3	100.8
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	↑	86.6	86.3	86.4	87.2	87.6	88.0	88.3
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	↑	187.5	172.5	173.8	196.9	201.9	215.2	207.2
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	↓	15.4	15.9	15.7	14.6	14.2	13.6	13.2
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	↓	13.4	13.7	13.6	12.8	12.4	12.0	11.7
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	↑	98.7	98.9	99.0	99.2	99.4	99.5	99.7

評価指標: ↑高い値がよい ↓低い値がよい 全国平均:「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)による医歯系法人を除く2016年度数値

貸借対照表関係比率(2015年度以降)

(単位:%)

	算式(×100)	評価指標	2015	2016	2017	全国平均
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	↓	100.6	100.3	98.6	98.9
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債+純資産}}$	↑	88.3	88.6	89.0	87.6
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	↑	201.9	210.8	240.6	252.2
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	↓	13.2	12.8	12.3	14.2
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	↓	11.7	11.4	11.0	12.4
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	↑	99.7	99.7	99.9	97.3

## 学校別の状況

各学校の収支状況を表7「学校別収支計算書」によって説明します。

大学では、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、付随事業・収益事業収入の増収があり、事業活動収入合計は412億8,000万円の前年度に比べて3.1%増となりました。基本金組入額は、ラーネッド記念図書館改修工事や松蔭寮改修工事などの事業を実施するほか、第2号基本金および第3号基本金の組入も行い、7億200万円となりました。

事業活動支出は、教育研究経費の予算執行残などがあり、総額では予算額を下回りました。合計では388億8,500万円と前年度に比べて1.9%増ですが、事業活動収入の伸びにより、16億9,300万円の収入超過となりました。

女子大学では、学生生徒等納付金、補助金などの増収により、事業活動収入合計は104億7,300万円となりましたが、前年度に比べて2.0%減となりました。基本金組入額は、今出川キャンパス整備事業および京田辺キャンパス整備事業等を実施しましたが、先行組入により行ったため、1億8,400万円に留まりました。

事業活動支出合計では99億7,900万円の前年度と比べ0.8%減となり、この結果、3億1,000万円の収入超過となりました。

各中学校・高等学校、小学校、国際学院、幼稚園では、学生生徒等納付金において、中学校・高等学校、国際中学校・高等学校および香里

中学校・高等学校では、前年度に比べて増収となり、他の学校でも前年度並みの収入を確保しています。補助金は減少傾向で、香里中学校・高等学校および幼稚園を除いては前年度に比べて減収となりました。基本金組入額は、中学校・高等学校で、南体育館および付属棟のための第2号基本金とあわせて4億9,600万円、香里中学校・高等学校で、教学施設整備のための第2号基本金とあわせて2億9,200万円を組入れています。

法人部勘定では、各学校が法人内で調達した建設事業資金の償還額を繰出金に計上しています。また、特別会計として住宅資金貸付金会計を計上しています。

### 収支計算書について

この計算書は学校法人会計基準による事業活動収支内訳表の体裁をとりつつも、部門間のみなし配分を避け、内部取引の収支を明らかにする目的で、計上方法を一部変更しています。

すわなち、学校法人部門は大学に、新設学部等の開設前の収支は、それぞれの設置校に含めています。各中学校・高等学校は、中学校・高等学校の合計額で、大学附属の小学校、国際学院も独立した部門として表示しています。また、内部取引の各校認識額については繰入金・繰出金に、法人に係る経費の各校分担額は分担金(支出)に計上しています。

表7 2017(平成29)年度 学校別収支計算書

(単位:百万円)

	大学	女子大学	中高	国際中高	香里中高	女子中高	小学校	国際学院	幼稚園	法人部勘定	住宅会計	合計
学生生徒等納付金	32,721	9,290	1,761	1,147	1,258	1,290	536	454	47			48,504
手数料	2,078	333	18	23	28	15	3	2	1			2,501
寄付金	533	69	54	41	318	36	21	7	14			1,093
補助金	3,050	385	462	243	624	357	106	67	21			5,315
受取利息・配当金	286	111	8	3	8	5	3	1	1		19	445
資産売却差額	20											20
付随事業・収益事業収入	1,092	62		103			66	25				1,348
雑収入	1,378	207	69	20	46	6	1		23			1,750
繰出金	16	16	7	5	5	5	4	3	1	510		572
分担金	106											106
事業活動収入合計	41,280	10,473	2,379	1,585	2,287	1,714	740	559	108	510	19	61,654
基本金組入額合計	△ 702	△ 184	△ 496	△ 8	△ 292	△ 20	△ 1	△ 7	△ 50			△ 1,760
収入の部合計	40,578	10,289	1,883	1,577	1,995	1,694	739	552	58	510	19	59,894
人件費	21,178	4,985	1,494	1,020	1,147	1,050	461	607	72			32,014
教育研究経費	15,741	3,941	727	315	520	404	243	217	16			22,124
管理経費	1,808	758	72	114	59	35	16	69	4			2,935
借入金等利息	1		1		1							3
資産処分差額	82	215	3	2								302
徴収不能額等	41	1	1									43
繰入金	34	2	170	101	130	115		1			19	572
分担金		77	9	6	7	7						106
事業活動支出の部合計	38,885	9,979	2,477	1,558	1,864	1,611	720	894	92		19	58,099
当年度消費収支差額	1,693	310	△ 594	19	131	83	19	△ 342	△ 34	510	0	1,795

## 2018年度の事業計画

2018年度は以下の事業に取り組みます。

### 【将来構想・記念事業】

大学では、「同志社大学ビジョン2025ー躍動する同志社大学ー」の中期行動計画に掲げる具体的施策の推進に着手に取り組みます。

女子大学では、「Vision150」のコンセプトに基づき、第1期(2017～2021年度)の中期目標を達成するためのアクション・プランを順次進めていきます。

法人では、創立150周年記念事業の検討を開始し、その一つとしての「同志社百五十年史」の編纂に取り掛かります。

### 【教学組織】

大学では、全学部に亘る収容定員増加により、適正な規模による安定的な大学運営を継続的に行う基盤づくりを進めます。また、チュービンゲン大学に開設したEUキャンパス運営のための「EUキャンパス支援室」および大学院教育改革の推進に向けての「卓越大学院プログラム推進室」を新たに設置します。

女子大学では、大学院看護学研究科において開設初年度を迎えます。また、創造性・問題解決能力の涵養を明確に意識した教育・研究の展開のため、学芸学部情報メディア学科の名称を「メディア創造学科」に変更します。

法人では、「同志社一貫教育総合研究所(仮称)」開設に向けた検討を進めます。

### 【教育研究】

大学では、文部科学省の博士課程教育リーディング・プログラム事業として進めているグローバル・リソース・マネジメント(GRM)プログラムの事業最終年度として、グローバルに活躍するリーダーの養成を引き続き推進します。また、昨年度締結した文化庁地域創生本部との研究交流に関する包括協定に基づき、「文化芸術創造都市に係わる評価と今後のあり方に関する研究」をテーマとした文化庁との共同研究を進めます。

大学および女子大学では、京都市の「京(みやこ)グローバル大学」促進事業において、留学生誘致をはじめ、日本人学生の海外留学派遣、交換留学にもつながる大学間協定等の締結の拡充などに引き続き取り組みます。

各学校(大学、女子大学を除く)では、国際感覚に富み国際社会に貢献できる生徒・児童・園児の育成を目的とした立石ファンドを活用し、特色ある国際主義教育の取り組みを継続します。

国際中学校・高等学校では、スーパーグローバルハイスクール委託事業に継続して取り組みます。

法人では、昨年度締結した医療法人社団石鎚会との連携に関する包括

協定を通じ、法人内各学校における医療・介護・福祉などの分野での教育研究の進展と地域社会発展への寄与に係る諸事業を推進します。

教育環境面では、大学では、4年ごとに実施しているインフラ系情報システムのリプレースを行うほか、引き続き教室等マルチメディア環境の整備を行います。

女子大学では、情報処理教室・自習室のPC、周辺機器およびサーバの更新を行います。

### 【学生生徒支援】

大学では、びわこリトリートセンターなど本学施設を利用して、世界学生環境サミットを実施します。また、近年は事業費の大部分を経常予算により賄うこととしている一部の第3号基本金を奨学金基金に統合することにより、奨学事業全体としての維持、充実に努めます。

女子大学では、海外におけるインターンシップ実習について、昨年度から実施したオーストラリアの保育園に加え、中国(上海)の日系企業でも新たに実施します。また、ボランティア活動支援センターでは情報共有、啓発のための各種講座や報告会を開催し、活動のさらなる充実に努めます。

小・中・高等学校においては、児童・生徒が安心して勉学に専念できるよう、修学支援のための奨学金制度を継続します。

### 【建設事業】

大学では、日本人学生と外国人学生の混住・共修環境を整えた教育推進に係る新学生寮を継志館敷地を活用して新たに建設する計画について、2021年10月開館を目指して着手いたします。また、建物の耐震化対策が急がれる中、耐震改修工事が困難な煉瓦造の各建物のうち致遠館について、3年計画での建替工事に取り組みます。その他、今出川キャンパスでは経年劣化および安全対策のための空調設備更新工事および建物壁面改修工事、京田辺キャンパスでは体育施設への空調設備設置工事などを行います。

女子大学では、今出川・京田辺両校地の大規模なキャンパス整備事業は昨年度までに完了し、本年度は既存のみぎわ寮の改修工事を進め、さらに2020年度の供用開始を目指して京田辺新寮(仮称)の建設工事を開始します。

中学校・高等学校では、昨年度に着手し、京都市における協議が完了した南体育館および附属棟建設事業について、本格的に建設工事を進めます。

香里中学校・高等学校では、人工芝改修を中心とする第一グラウンド改修工事を行います。

幼稚園では、大学および女子大学の協力も得て、フレンドピースハウスおよびハワイハウス敷地への新園舎建設を2020年4月に移転する計画を進めます。

表8 2018(平成30)年度以降の収支見通し

(単位:百万円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
学生生徒等納付金	48,304	48,576	48,616	48,515
手数料	2,149	2,291	2,291	2,282
寄付金	530	694	794	844
補助金	5,186	5,199	5,195	5,191
受取利息・配当金	369	380	392	392
付随事業・収益事業収入	609	1,129	1,133	1,133
雑収入	1,402	1,396	1,541	1,307
事業活動収入合計	58,549	59,665	59,962	59,664
基本金組入額合計	△ 2,784	△ 4,486	△ 3,932	△ 3,150
収入の部合計	55,765	55,179	56,030	56,514
人件費	32,075	31,934	32,053	31,694
教育研究経費	22,285	22,590	22,677	22,655
管理経費	2,850	2,617	2,628	2,624
借入金等利息	1	0	0	0
資産処分差額	56	168	0	0
徴収不能額等	29	45	45	45
予備費	363	112	112	109
事業活動支出の部合計	57,659	57,466	57,515	57,127
基本金取崩額	4	0	0	16
当年度収支差額	△ 1,890	△ 2,287	△ 1,485	△ 597

# 法人の概要

## 理事・監事・評議員

### 理事

八田 英二(総長・理事長)  
 松岡 敬(大学長)  
 加賀 裕郎(女子大学長)  
 中村 信博 内山伊知郎 (学校長等互選)  
 新 茂之 濱 直樹 松尾 博文 中村 友二  
 西山 啓一 玉村三保子 横井 和彦 (評議員互選)  
 井上 礼之 長澤 邦彦 吉岡 康博 (学識経験者)

### 監事

大井 成夫 佐野 修弘 植田 弘

### 評議員(○印 議長)

新 茂之 藤本 千佳 池上 作 石田 修一 木原 活信  
 小崎 眞 松原 久利 松尾 博文 坂本 典明 園田 毅  
 鋤柄 俊夫 寺本 正芳 辻 文人 横井 和彦 ○百合野正博  
 (教職員互選)  
 船越 照平 濱 直樹 井上 幸男 児玉 正之 小嶋 淳司  
 南 美樹 中村 公紀 中村 友二 坂 光司 豊原 洋治  
 山下 泰生 (校友会選定)  
 三好三恵子 清水久美子 玉村三保子 余田由香利 (同窓会選定)  
 池西 幸子 宮庄 哲夫 森田 雅憲 西村 公雄 西山 啓一  
 塚越 一彦 吉田 進 (理事会選定)

2018年4月1日現在

## 沿革

1875(明治8)年 11月29日	官許「同志社英学校」を開校 新島襄初代社長に就任	1951(昭和26)年 3月	[大学]教養学部解散(1948年4月発足)
1876(明治9)年 9月	今出川校地(相国寺門前の薩摩藩邸跡)に 校舎、食堂を建て寺町から移る	9月	香里学園を合併し、香里中学校、同高等学校を開校
10月	京都御苑内の旧柳原邸 (現・京都迎賓館の一部)で女子塾を開校	1953(昭和28)年 4月	[大学]大学院博士課程開設
1877(明治10)年 4月	同志社分校女紅場を開校	1954(昭和29)年 4月	[大学]短期大学部を発展的に解消、大学2部(4年制) (文・法・経済・商・工各学部)開設
9月	女紅場を同志社女学校と改称	1955(昭和30)年 4月	[大学]工学研究科修士課程開設
1883(明治16)年 2月	「同志社社則」を制定	1967(昭和42)年 4月	[女子大学]文学研究科修士課程開設
1884(明治17)年 4月	新島、2度目の海外旅行に出発(翌年12月帰国)	1968(昭和43)年 4月	[女子大学]家政学研究科修士課程開設
9月	同志社最初の煉瓦建築、彰栄館竣工 (国の重要文化財)	1975(昭和50)年	創立100周年を迎え、記念事業を行う [女子大学]文学研究科博士後期課程開設
1886(明治19)年 6月	新礼拝堂(チャペル)竣工(国の重要文化財)	1976(昭和51)年 3月	商業高等学校廃校
1887(明治20)年 11月	書籍館(現・有終館)開館(国の重要文化財) 同志社病院・京都看病婦学校の開校、開校式	1980(昭和55)年 4月	国際高等学校開校
1888(明治21)年 11月	「同志社大学設立の旨意」を 全国の主要雑誌・新聞に発表	1986(昭和61)年 4月	田辺校地(現・京田辺校地)開校 大学・女子大学の授業開始 [女子大学]短期大学部開設
1890(明治23)年 1月23日	新島、静養先の神奈川県大磯にて永眠(46歳)	1988(昭和63)年 4月	国際中学校開校
7月	アメリカの実業家J.N.ハリスの10万ドルの 寄付によるハリス理化学館竣工(国の重要文化財)	1989(平成元年) 4月	[女子大学]学芸学部日本語日本文学科開設
9月	ハリス理化学館開校	1991(平成3)年 4月	[大学]アメリカ研究科開設
1891(明治24)年 9月	政法学校開校	1994(平成6)年 4月	[大学]工学部、及び工学研究科、 理工学研究所を田辺校地(現・京田辺校地)に統合移転
1892(明治25)年 6月	[女学校]本科を普通科、高等科を 専門科(師範科、文学科、神学科)に改める	1995(平成7)年 4月	[大学]総合政策科学研究科開設
1893(明治26)年 10月	同志社徽章(校章)を制定	1997(平成9)年 4月	[大学]昼夜開講制を実施
1894(明治27)年 1月	神学館(現・クラーク記念館) 開館式(国の重要文化財)	1999(平成11)年 4月	[大学]留学生別科開設
1896(明治29)年 4月	普通学校を同志社高等普通学校と改称し、 新たに同志社尋常中学校を開校	2000(平成12)年	創立125周年を迎え記念事業を行う
1897(明治30)年 3月	M.F.デントン、出町幼稚園 (現・同志社幼稚園)を開園	4月	[女子大学]現代社会学部開設、短期大学部募集停止
1900(明治33)年	出町幼稚園を今出川幼稚園と改称	2002(平成14)年 4月	[女子大学]学芸学部情報メディア学科開設 [香里中学]共学化
1901(明治34)年 3月	[女学校]普通科を高等普通科と改め、 新たに専門学部を設置	2004(平成16)年 4月	[大学]政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、環境システム学科開設 司法研究科(法科大学院)開設 ビジネス研究科(ビジネススクール)開設 [女子大学]現代社会学部に現代こども学科開設 国際社会システム研究科開設
1904(明治37)年 4月	専門学校令による神学校と専門学校を開校 政法学校廃校	2005(平成17)年	創立130周年を迎え記念事業を行う
1906(明治39)年 4月	同志社病院・京都看病婦学校閉鎖 ハリス理化学館廃校	4月	[大学]文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学]薬学部開設
1908(明治41)年	同志社カラレッジソングができる	2006(平成18)年 4月	同志社小学校開校
1912(明治45)年 4月	専門学校令による同志社大学 (予科、神学部、政治経済学部、英文科)、 女学校専門学部(英文科、家政科)を開校	2007(平成19)年 4月	[大学]文化情報学研究科開設 [女子大学]学芸学部国際教養学科開設
1920(大正9)年 4月	大学令による同志社大学 (文学部、法学部、大学院、予科)の開校	2008(平成20)年 4月	[大学]生命医科学部開設、スポーツ健康科学 部開設、工学部を再編し理工学部開設、 理工学部に数理システム学科開設、生命医科学研究科開設
1922(大正11)年 4月	専門学校令による大学を専門学校 (神学部、英語師範部、高等商業部、 政治経済部)として再編成	2009(平成21)年 4月	[大学]心理学部・心理学研究科開設 [女子大学]表象文化学部開設
1928(昭和3)年 1月	[女学校]普通学部を女学校高等女学部と改称	2010(平成22)年	創立135周年を迎え記念事業を行う
1929(昭和4)年 4月	[専門学校]高等商業部を岩倉に移転	4月	[大学]スポーツ健康科学研究科開設、 グローバル・スタディーズ研究科開設
1930(昭和5)年 6月	[女学校]専門学部を女子専門学校と改称	2011(平成23)年 4月	[中高]中学校・高等学校統合 [大学]グローバル・コミュニケーション学部開設
9月	[女学校]普通学部を高等女学部と改称	同志社国際学院開校	
12月	[専門学校]高等商業部を高等商業学校と改称	2012(平成24)年 4月	[大学]脳科学研究科開設 工学研究科を理工学研究科と改称 [女子大学]薬学研究科開設
1943(昭和18)年 4月	中学校令による中学校開校	2013(平成25)年 4月	[大学]グローバル地域文化学部開設 [女子大学]音楽専攻科開設
1944(昭和19)年 4月	工業専門学校 (電気通信科、機械科、化学工業科)開校	2014(平成26)年 4月	[大学]ビジネス研究科グローバル経営研究専攻 修士課程開設
1947(昭和22)年 4月	新学制により新制中学校、女子中学校発足	2015(平成27)年	創立140周年を迎え記念事業を行う
1948(昭和23)年 4月	新制大学(神学部、文学部、法学部、経済学部) 新制高等学校、新制定時制商業高等学校、 新制女子高等学校を設置	4月	[女子大学]看護学部開設
1949(昭和24)年 4月	商学部と工学部を新設し、大学は六学部となる 女子大学(学芸学部)開校	2017(平成29)年 9月	[大学]留学生別科廃止
1950(昭和25)年 4月	高等学校が岩倉校地へ移転 [大学]大学院修士課程 (神・文・法・経済・商各研究科)を開設 [大学]短期大学部(夜間2年制) (英語・商経・工各学科)開設	2018(平成30)年 4月	[女子大学]看護学研究科修士課程開設

2018年4月現在